



IPSWITCH

IMail Server

Getting Started Guide



IPSWITCH

CHAPTER 1 IMail で導入

他の情報ソース	1
弊社の Web サイトをご覧ください	2
インターネットメールシステムのコンポーネント	2
IMail サポートセンター	3

インストールの計画

ステップ 1 :必要な事柄	5
IMail Server システム要件	5
ステップ 2 :メールサーバで使用する DNS 項目の作成	6
1 次メールホストの DNS 設定	7
追加 (仮想) メールホストの追加	8
複数メールホスト用の DNS の設定	9
ステップ 3 :ユーザデータベースの種類を選択	10
ステップ 4 :提供した電子メールサービス	12
ステップ 5 :セキュリティレベルとアクセス制御の決定	13
SMTP メール中継オプション	13
SMTP 認証	14
IMail Server および Web Messaging 用の SSL	14
ステップ 6 :メールホストが 1 つの場合と複数の場合	15

IMail Server のインストール

ステップ 1 :インストールの開始と IMail の起動	17
ステップ 2 :Web サーバの設定	19
ステップ 3 :サーバの正式ホスト名の設定	19
ステップ 4 :ユーザデータベースの選択	19
ステップ 5 :セキュリティオプションの設定	20
ステップ 6 :使用する IMail サービスの選択	21
ステップ 7 :最終オプション	22
プロキシサーバ	22
スタートメニューとショートカット	22
システムに管理者とユーザを追加	22
システムの再起動	22
Instant Messenger ユーザデータベース (IMail Premium のみ)	22

WorkgroupShare クライアント設定(IMail Premium のみ).....	23
IMail Server のインストールのテスト	
DNS 設定の確認.....	25
IMail Server のインストールの確認	27
ユーザデータベースの設定の確認	29
テストアカウントを使用したメールの送受信	31
アップグレード	32
外部データベースを使用したアップグレード	33
LDAP データベースのアップグレード	33
アンチスパム機能のアップグレード	34
IMail Server のアンインストール.....	35
IMail Antivirus の使用	
IMail Antivirus について	37
IMail Antivirus Administration	37
Symantec Scan Engine Web Administrator	38
新 ScanEngine 5.1.4	39
IMail Antispam の使用	
IMail Antispam について	41
アンチスパム機能を使ってできること	43
アンチスパム機能へのアクセス	43
Ipswitch へのスパムの転送	46
Mail Servers と DNS	
DNS について	49
メールサーバの DNS 使用法.....	50
DNS 内でのメールサーバレコードの設定	51
ローカルネットワークの DNS サーバの設定	51
Index	

IMail で導入

In This Chapter

他の情報ソース	1
弊社の Web サイトをご覧ください	2
インターネットメールシステムのコンポーネント	2
IMail サポートセンター	3

本ガイドでは、お客様の IMail Server ソフトウェアの計画、インストール、テストについて説明しています。

これには、以下のオプションのコンポーネントのインストールのガイダンスに加え、IMail、IMail Plus または IMail Premium のインストールについての説明も含まれています:IMail 用 Antivirus、IMail 用 Premium Antivirus、および Instant Messenger

他の情報ソース

以下は、IMail でヘルプとして使用できる資料のリストです。

- **アプリケーションヘルプ。**すべての Ipswitch 製品で、**[Help]** をクリックすれば、いつでもヘルプを利用できます。IMail の設定、詳細設定、サービスのオプション、メーリングリストなどについての情報が提供されています。
- **リリース ノート。****[スタート]>[プログラム]>[Ipswitch IMail Server]>[マニュアル]** フォルダにある、リリースノートには、現在のリリースに関する変更、既知の公開事項、バグの修正の概要が掲載されています。また、このノートには、IMail Server の更新と外部データベースの設定に関する説明が含まれています。
- **Microsoft Internet Information Services (IIS) ヘルプ** IIS の設定や構成に関する追加情報については IIS ヘルプを使用してください。

弊社の Web サイトをご覧ください

Ipswitch 製品およびサービスについての詳細は、以下の Ipswitch Web サイトをご覧ください。<http://www.ipswitch.com>

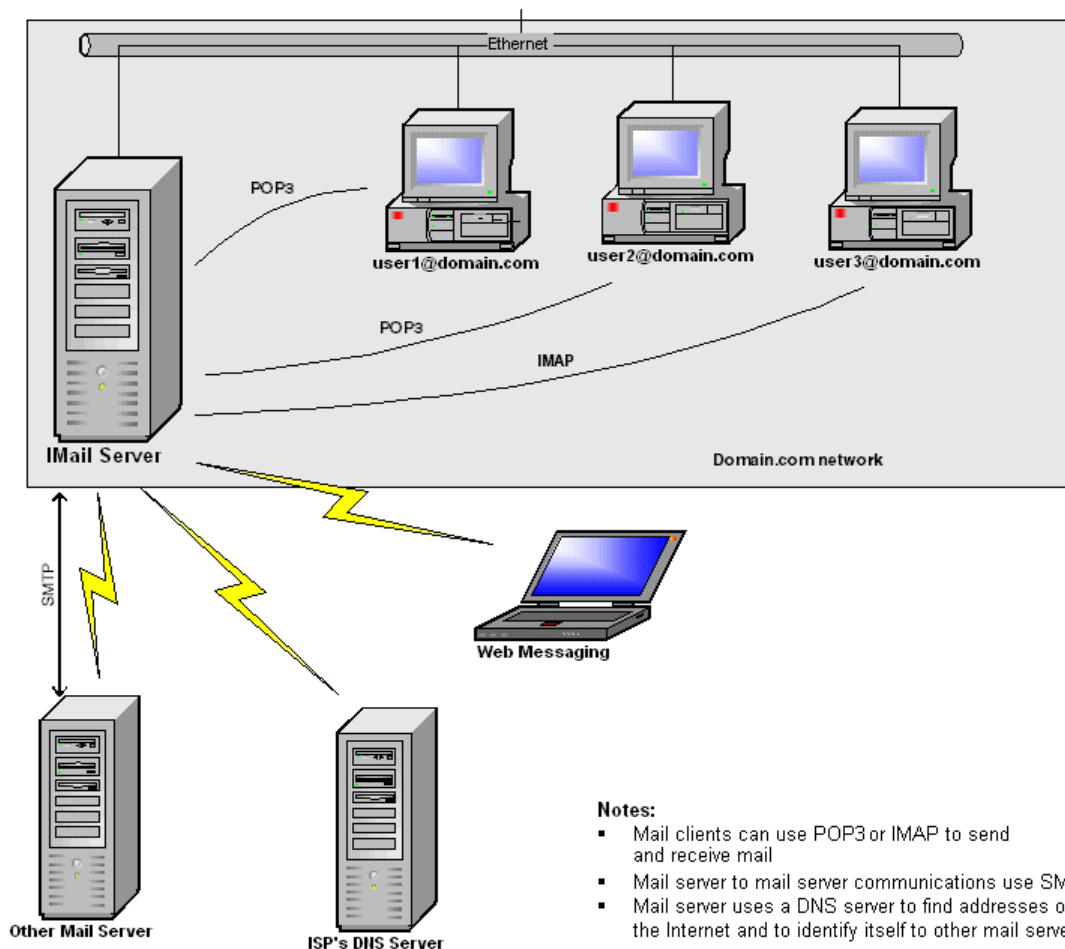
インターネットメールシステムのコンポーネント

IMail Server では、インターネットを利用したメールシステムを実装するために必要な以下の基本サービスを提供しています。

- SMTP サーバにより、IMail Server が他のメールサーバとインターネット上で通信できます。
- POP3 サーバにより、電子メールクライアントが、メールサーバからメールを取得できます。
- IMAP サーバにより、電子メールクライアントがメールサーバにあるメールにアクセスすることもできます。

本書では、メールサーバの設定に絞って説明しますが、お客様のメールサーバをインターネットに接続し、ユーザにメール機能を提供するには、以下のソフトウェアコンポーネントも必要になります。

- **ドメインネームシステム (DNS) サーバ。**DNS は、お客様のネットワーク上に配置することも可能ですが、インターネットサービスプロバイダのホスティングサービスも利用できます。
- **電子メールクライアント。**ユーザは、電子メールを読んだり、Web ブラウザまたは Microsoft® Outlook Express®, Microsoft® Outlook®, Qualcomm Eudora® などの各メールユーザの独自電子メールクライアントを経由して電子メールを送信したりするために、Ipswitch IMail Web Messaging を使用できます。



IMail サポートセンター

IMail サポートセンターでは、以下を含む多くの資料をご提供しています。

- ユーザガイド
- ドメインネームシステム (DNS) ヘルプ
- 製品アップデート、ユーティリティ、Knowledge Base (KB) の記事、その他の IMail 資料にアクセスしてください。
- 電子メールサポートフォーラム、サービスの手配、ライセンス情報などの技術サポート情報。
- IMail ユーザフォーラムでは、ヒントやコツを共有するために他の IMail のお客様と交流できます。

<http://www.ipswitch.com/support/imap/index.asp>

『<http://www.imailserver.com/Support/>』で IMail サポートセンターにアクセスできます。

インストールの計画

In This Chapter

ステップ 1 :必要な事柄	5
ステップ 2 :メールサーバで使用する DNS 項目の作成	6
ステップ 3 :ユーザデータベースの種類の選択	10
ステップ 4 :提供した電子メールサービス	12
ステップ 5 :セキュリティレベルとアクセス制御の決定	13
ステップ 6 :メールホストが 1 つの場合と複数の場合	15

Windows ベースアプリケーションやオペレーティングシステムについての実用的な知識があれば、**IMail Server** のインストールが迅速かつ簡単だということがお分かりいただけます。ただし、**IMail Server** 設定が、お客様の環境で確実に動作するように、インストールの計画を立てることをお勧めします。

このセクションでは、1 次ホスト (**IMail Server** のインストール先のシステム) について知る必要のあるものとインストールを実行する前に決めなければならないことについて説明しています。

ステップ 1 :必要な事柄

メールサービスの性能とフレキシビリティを最大限に引き出すために、電子メールサーバとしてのみ動作するコンピュータを指定し、他のサーバと一緒に実行させないことをお勧めします。

IMail Server システム要件

ハードウェア

- Intel Pentium® 4, 1 GHz 以上または同等のプロセッサ。Pentium4、3+ GHz の使用を推奨メールトラフィックが高い場合は、マルチプロセッサを推奨

IMail 導入ガイド

- 512 MB 以上の RAM ; 1+ GB の使用を推奨。
- 静的 IP アドレスを持った TCP/IP が有効な NIC カード。
- インターネットへのブロードバンドまたはダイヤルアップ接続。
- ポケベルのメール (mail-to-pager)、コンピュータと FAX 間の通信 (mail-to-fax)、IMonitor 通知には、モデムと電話回線が必要。

<注記> 最高のパフォーマンスを実現するには、最新版に更新されたオペレーティングシステムが使用されていることをご確認くださいようお奨めします。さらに、さらに、操作性とセキュリティを向上させるには NTFS (FAT よりも) ファイルシステムを推奨します。

<ヒント> IMail Server は、インストールされたオペレーティングシステム 推奨の最小ハードウェア要件で適切に稼働します。パフォーマンスおよび容量の向上については、プロセッサのスピード、RAM およびドライブ容量に基づきます。すべてのサーバアプリケーション同様、予算の許す限り最速で最も強力なサーバ上に IMail Server をインストールするようお勧めします。

ソフトウェア

- Microsoft® Windows® 2000 Server または Microsoft Windows 2003 Server

<注記>Windows 2000 Domain Controller 上または 64-bit OS 上に IMail を配置しないでください。IMail Server は、64-bit のオペレーティングシステムではまだテストされておりません。

- Microsoft Internet Information Services (IIS) 5.0 以降
- Windows Script 5.6 (Microsoft Internet Explorer 6 に付属)
- Microsoft Data Access Component (MDAC) 2.6 以降
- Microsoft® .NET Framework 2.0

<注記>上記のソフトウェアのいずれも所有されていない場合は、ソフトウェアのソースへのリンクについて最新のリリースノートをご参照ください。

ステップ 2 : メールサーバで使用する DNS 項目の作成

IMail Server のインストール先となるシステムに必要な ドメインネームシステム (DNS) 設定を決定します。DNS 項目を作成する前に、Windows TCP/IP 設定のために以下を計画します。

- 1 次ホスト。IMail Server をインストールするサーバ。

IMail 導入ガイド

- **ホスト名 (1 次ホストの)**。電子メールサーバのホスト名、例、*mail*。
- **IP アドレス (1 次ホストの)**。IP アドレスは、電子メールサーバホスト用の静的アドレスです (例、*156.21.50.15*)。
- **ドメイン名**。ドメイン名で、ホストが存在するネットワークを識別します (例、*domain.com*)。

DNS でメールホストを識別するには、ホスト名に加えてドメイン名を使用します。例えば、*mail.domain.com* にします。これは、完全装飾ドメイン名 (FQDN) としても知られています。

Windows 2000 システムに DNS 情報を追加するには:

- コントロールパネルの**[システム]**アイコンをクリックして、**[ネットワーク ID]** タブをクリックし、次に**[プロパティ]**をクリックします。ドメイン情報が **[ID の変更]** ダイアログボックスに表示されます。

Windows 2003 または Windows XP システムに DNS 情報を追加するには:

- コントロールパネルの **[システム]** アイコンをクリックして、**[ネットワーク接続] > [ローカルエリア接続] > [プロパティ]** をクリックします。リストからインターネットプロトコル (TCP/IP) を選択し、次に **[プロパティ] > [詳細設定] > [DNS]** タブをクリックします。

リモートホスト (ローカルネットワーク上に存在しないホスト) がシステムと通信できるようにする場合は、ホスト名とドメイン名を **DNS (ドメインネームシステム)** で登録する必要があります。

1 次メールホストの DNS 設定

電子メールを適切に送受信するには、以下のレコードを DNS サーバに追加します。インターネットサービスプロバイダ (ISP) がお客様の DNS サーバをホストしている場合は、適切なレコードを DNS サーバに追加するように ISP に連絡します。

- **MX レコード**。メールサーバを実行しているコンピュータのホスト名を識別するために、Mail eXchanger (MX) レコードを作成します。複数ドメインをホストする場合は、ドメインごとに MX レコードが必要です。MX レコードは、IMail Server (1 次ホスト) の (完全修飾) ホスト名を指定します。例: *domain.com IN MX 10 mail.domain.com*
- **A レコード**。IMail Server (1 次ホスト) の IP アドレスがある IMail Server 用に Address (A) レコードを作成します。A レコードにより、IP アドレスへのホスト名が割り当てられます。例: *mail.domain.com IN A 156.21.50.15*
- **PTR レコード**。逆引き参照用に A Pointer (PTR) レコードを作成します。IMail Server (1 次ホスト) の IP アドレスを IMail ドメインの正式なホスト名に変換する場合に PTR レコードが必要です。例:
156.21.50.15 in-addr.arpa. host=mail.domain.com.

IMail 導入ガイド

- **SPF レコード** (オプションですが、SPF 機能を使うメールサーバの受信に必要です)。SPF レコードにより、メールサーバに関連している可能性がある偽造の (スプーフ) 電子メールアドレスからの受信メールを防ぐために、他のメールサービスが **SPF フィルタリング** を使用(メールサーバ上でこの機能が利用可能になっている場合) するようになります。SPF レコードはより広範に実行されるので、**SPF フィルタリング** はスプーフされた電子メールアドレスを識別する際により効果的になります。詳細については、「*IMail Administrator ヘルプ*」をご参照いただくか、http://www.openspf.org/Project_Overview で SPF コミュニティをご覧ください。

例: imailbox.domain.com の正式なホスト名が付いたホストの DNS 項目は以下のようになります。

```
SOA
$ORIGIN
...
domain.com
IN MX 10 mail.domain.com           (MX レコード)
mail IN A 156.21.50.5              (A レコード)
5.50.21.156.in-addr.arpa., type = PTR
host = mail.domain.com            (PTR レコード)
```

user@domain.com に送信済みのメールの DNS 参照により、そのメールが mail.domain.com でホストに送信されるはずだということが分かります。

追加 (仮想) メールホストの追加

<注記>追加のメールドメイン、仮想ドメイン、ドメインエイリアスは、初期インストール後に追加可能です。後で追加する場合は、メールドメイン追加に応じて DNS レコードをアップデートしていることをご確認ください。

仮想ホストには、次の 2 種類があります。

- **IP アドレス付きの仮想ホスト**。IMail Server が自身のユーザを持つ 2 次ドメイン用にメールを受信するようにする場合はこちらをお勧めします。2 次ドメイン用に仮想ホストを設定できます。例えば、お客様のメールサーバにより、domain1.com 用のメールサービスが提供されており、domain2.com 用のメールサービスの提供も受ける場合は、domain2.com 用に仮想ホストを作成できます。
- **IP アドレスなしの仮想ホスト**。IP アドレスが不足してる場合またはメールをすべて別のドメインのユーザのドメインまで転送する場合は、こちらをお勧めします。

<注記>使用する仮想ホストが IP アドレス付きであろうとなかろうと、お客様のドメイン用に DNS 項目を作成する必要があります。「複数メールホスト用の DNS の設定」『on page 9』をご参照ください。

仮想ホストについての詳細は、「*IMail Administrator ヘルプ*」を参照してください。

複数メールホスト用の DNS の設定

IP アドレス付きの仮想ホストを設定する場合は、お客様の DNS 内に以下の項目を作成します。

- メールドメイン用の MX レコードを追加します (例、mail.domain2.com)。MX レコードにより、仮想ホストのホスト名が識別されます。
- 仮想ホストのホスト名用の A レコードを追加します。A レコードにより、IP アドレスへのホスト名が割り当てられます。
- 仮想ホストの IP アドレス用の PTR レコードを追加します。PTR レコードにより、ホスト名に IP アドレスが割り当てられ、逆引き参照用に使用されます。

例：imailbox.domain2.com のホスト名が付いた仮想ホストの DNS 項目は以下のようになります。

SOA

\$ORIGIN

...

domain2.com

10.50.21.156.in-addr.arpa., type = PTR

host = mail.domain.com (PTR レコード)

user@domain2.com に送信済みのメールの DNS 検索により、そのメールが mail.domain2.com でホストに送信されるはずだということが分かります。

IP アドレスなしの仮想ホストを設定する場合は、お客様の DNS 内に以下の項目を 1 つだけ作成します。メールドメイン用の MX レコード (例、mail.domain3.com)。この MX レコードにより、1 次メールホストのホスト名が識別されます。

例：ホスト名が mail.domain3.com 用の IP アドレスなしの仮想ホスト用の DNS 項目は以下のようになります。

SOA

\$ORIGIN

...

domain3.com

user@domain3.com に送信済みのメールの DNS 参照により、そのメールが mail.domain.com でホストに送信される必要があるということが分かります。

<注記>IP アドレスなしの仮想ホストの MX レコードには 1 次メールホストドメイン名を使う必要はありません。つまり、MX レコードには、他の IP アドレス付きの利用可能なホストのドメイン名も使用できます。

DNS 項目の設定についての詳細は、以下をご参照ください。

- 『メールサーバの DNS 使用法『on page 50』』の実例付き入門書。
- 以下の Mail サポートセンターの DNS ヘルプ：

<http://www.ipswitch.com/Support/IMail/dns.html>

- 以下の IMail サポートセンターの Our Knowledge Base：

<http://www.imailserver.com/support/kb.html> 『
<http://www.imailserver.com/support/kb.html>』。

<注記>DNS 情報の参照には、Ipswitch WS_Ping ProPack が使用できます。WS_Ping ProPack を使った DNS 情報の参照の詳細については、23 ページの「ステップ 1：DNS 設定の確認」を参照してください。

ステップ 3：ユーザデータベースの種類の選択

ユーザを登録し、認証するために 1 次ホストが使用するデータベースを識別します。1 次ホストには、以下の登録・認証用データベースのうちの 1 つが使用可能です。

<注記>登録により、ユーザ ID とパスワードを確認するユーザメールアカウントと認証が作成されます。

- **IMail データベース。**メールアカウント用のユーザ ID とパスワードはすべて、Windows NT か Windows 2000 のユーザデータベースか他の外部データベースのいずれから、または、Windows レジストリ内の独自データベースに個別に保存されています。このデータベースは、IMail または ICS アプリケーションのサポートでのみに利用、管理、共有できます。

Windows NT または Windows 2000 ユーザを Windows NT または Windows 2000 ユーザデータベースにリンクしていない IMail ユーザデータベースにインポートすることも可能です。Windows NT または 2000 ユーザのインポートについての詳細は、「IMail Administrator ヘルプ」をご参照ください。

- **Windows NT データベース。**このデータベースにより、お客様のホストマシン上の Windows NT or Windows 2000 ユーザデータベースに一覧化されているユーザのためのメールアカウントが自動的に作成されます。

<注意>ドメイン上ではこのオプションを使用しないでください。代わりにアクティブディレクトリを使用してください。

<注記>1 次メールホストには、ネットワーク用の **Windows NT** または **2000** のユーザデータベースへのアクセス権が必要です。

お客様の **Windows NT** または **2000** のユーザデータベースでユーザの現在のリストを表示したり、ユーザを追加したり、ユーザを削除したりするには、**Windows** の説明書の説明に従って適切な管理ツール (例えば、**Windows NT User Manager**) を使用します。**IMail Administrator** を使って **NT** データベースユーザを表示、追加、削除できません。

<注記>**Windows NT** データベースと **Windows 2000** データベースでは異なるデータベース管理ツールを使用しています。

メールサーバがそのユーザ宛てのメッセージを受信したり、ユーザが最初にメールクライアントを通じて **IMail Server** にアクセスしたりした場合に、メールボックスとその他のユーザファイルが、ユーザ用に作成されます。

- **外部データベース。** **IMail Server** では、ユーザの登録・認証用に外部データベースが使用できます。このオプションにより、既存の **ODBC** 準拠のユーザデータベースを特定することになり、**IMail Administrator** からまたは外部データベースから直接のいずれかでユーザを追加したり、削除したりすることができます。**IMail Server** では、**Microsoft SQL Server** や **Microsoft Access** をサポートしています。

<重要> 外部データベースをお使いの場合は、**IMail** または **ICS** のインストール開始前に、そのデータベース用およびデータベースにログオンするためのユーザ **ID**・パスワード用の **ODBC** システム **DSN** 名が必要です。

IMAILSECDB は **IMail ODBC** リンクで使用されるデフォルトの名前です。例えば、**ODBC** システムデータソース名として、以下のように入力します：
`imailsecdb;UID=imailuser;PWD=password`

<重要> ホストでの外部データベースの関連付け用に、**IMail Server Administrator** を使用する前に、有効なデータベース名を指定しているシステム **DSN** (データソースネーム) が存在していることを確認するために **ODBC Data Source Administrator** を使用します。システム **DSN** についての詳細は、お客様の **Windows** オペレーティングシステムおよびデータベース説明書をご参照ください。

<注記> 異なる **ODBC** データベースをご使用になる場合は、そのデータベースのサポート用に **IMail Server** の **ODBCUser.dll** ファイルを修正できます。詳細については、以下で、**IPSwitch** の Knowledge Base の **ODBC** トピックをお読みください。
<http://support.ipswitch.com/kb>

このトピックを表示するには、[検索] ボックスに **ODBC** と入力し、製品リストから **IMail Server** を選択し、次に [検索] をクリックします。

- **アクティブディレクトリ - Domain Controller** にアクティブディレクトリデータベースをインストールしないでください。

ステップ 4 :提供した電子メールサービス

基本的な SMTP サービスに加えて、IMail では、お客様が 1 つのソース、すなわち、[サービス管理] ページで開始または停止できる他のサービスをご提供しています。各サービスについてのより詳細な説明をしている個別のオンラインヘルプファイルをご利用いただけます。インストールに伴い提供されるサービスには以下のものがあります。

- **Symantec Antivirus Scan Engine** (個別利用可能) により、自動的にウィルス、ワーム、トロイの木馬から保護します。
- **Bit-Defender Antivirus**(個別利用可能) により、ウィルス、トロイの木馬、またはその他の潜在的に悪意のあるコードに対し、完全に統合された積極的な保護をご提供します。
- **Premium Antispam Service** (IMail Premium または IMail Plus で利用可能) により、メールフィルターの言語認識、自動的にアップデートされるアンチスパムテクノロジーが提供されます。
- **IMail Monitor Service (IMonitor)** によりメール管理者が、全 IMail Services (SMTP、POP3、IMAP、ディスク容量、Web カレンダー、キューマネージャ、LDAP、IMonitor) のステータスをモニターできます。
- **IMail Web Calendar Service** によりユーザが スケジュールを保存したり、約束を入れたり、Web ブラウザを使って電子メール日付リマインダ情報を送信できるようになる Web カレンダーにアクセスできます。
- **Ipswitch Instant Messaging Server** (IMail Premium でのみ利用可能) により、ユーザがすぐに意見を交換したり、過去の会話を格納したりできます。
- **POP3 サービス**により、ユーザが、Qualcomm Eudora や Microsoft Outlook のようなクライアントを使っているメールを読み取ったり、送信したりできます。POP3 では、ユーザのメールは通常ユーザの PC に格納されます。
- **IMAP4 サービス**により、ユーザが、サーバからのメールを読んだり、Qualcomm Eudora や Microsoft Outlook のようなクライアントを使っているメールを送信したりできます。IMAP4 では、メールは通常、メールサーバに保管されます。

<注記> IMail Web Client は、IMAP を使用しません。メールサーバに直接アクセスします。

- **IMail Queue Manager Service** により、メールキューを通じてメッセージの流れを管理します。また、これは、SMTP 配信プロセスのコンポーネントです。
- **IMail Sys Logger Service** により、ユーザが、メールキューログファイル (スプールディレクトリとしても知られています) を表示できます。
- **LDAP サービス**では、ユーザ情報 ("属性"と呼ばれています) をサーバ上で公開し、LDAP が有効なクライアントからの情報にアクセスできるようにするクライアント/サーバアーキテクチャが使用されています。

- **Ipswitch WorkgroupShare Service** (IMail Premium で利用可能) により、連絡先と連絡先リストを Web Messaging の以前のバージョンまたは Microsoft Outlook の既存のバージョンから新しい IMail Web Messaging クライアントに自動的にインポートします。

ステップ 5 :セキュリティレベルとアクセス制御の決定

電子メールサーバの保全性を保つには、セキュリティレベルやアクセス制御を指定する必要があります。IMail Server では、例えば以下のような、複数の方法でメールサーバを保護することができます。

SMTP メール中継オプション

IMail Server (または SMTP サーバ) が別のホストを送信先とするメールを受け入れたり、そのメールをそのホストに送ったりする際にメールが中継されます。Mail Server ホスト以外のコンピュータで作成された他のホストを送信先とするメッセージは、IMail Server を通過する必要があります (つまり、IMail Server はメッセージを中継する必要があります)。お客様のユーザが (ローカルネットワーク上で) ローカル IMail Server を経由してのメール送信に POP3 または IMAP メールクライアントを使用されている場合、IMail Server はメールを中継する必要があります。IMail Server では以下のメール中継オプション (最もセキュアなものから最も安全性の低いものの順に並べてあります) が可能です。

- メール中継なし (インストールデフォルト)
- (アドレス) にメールを中継
- ローカルホストのみにメールを中継
- ローカルユーザのみにメールを中継
- あらゆる人にメールを中継

ローカルメール (IMail Server ホストを受信先とするまたは IMail Server から送信している) では、中継機能を使用しない。

<注記>インストール中に、以下の 4 つのオプションから選択できます。選択したアドレスに中継、メール中継をしない、すべての人に中継する、更新時に中継 :既存のローカルメール中継設定を変更しないでください。インストール後に、IMail Server の [サービス] タブ > [SMTP 設定] ページで中継設定を変更できます。

- メール中継なし (推奨)

SMTP サーバは、そのメールがメールクライアントが SMTP 認証するよう設定しているユーザからのものでない限り、他のホスト (IMail Server マシン上にないホスト) 宛てのメールを受け入れません。すべてのメールクライアントが

SMTP 認証を行うように設定されていることを確認してください、そうしなければ、クライアントは非ローカル電子メールアドレスにメールを送信できません。SMTP 認証とは、クライアントがメッセージを送信する際に、ユーザ名やパスワードがメールサーバに対して表示されていることを意味しています。

- **あらゆる人にメールを中継する (非推奨)**

SMTP サーバは、他のどのホスト宛てのどのホストからのメールも受け入れ、そのメールを再送信します (すなわち、メールゲートウェイとなります)。このオプションは、あらゆる人があらゆる人にメールを送信するためにお客様のサーバを使えるので、最低のセキュリティレベルです。大量送信者の中には、お客様のサーバを通じてメールを中継するだけでなく、メールがお客様のサーバから発信されているかのように装うために、この能力を利用する者もあるかもしれません。

このオプションを選択した場合、お客様のサーバがオープンリレーを実行しているとしてブラックリストに掲載される可能性があります。これを防ぐには、**[(アドレス) 宛てにメールを中継]** を選択する必要があります。

- **[(アドレス) 宛てにメールを中継]**、**[ローカルホストのみに中継]**、**[ローカルユーザのみに中継]**を含むインストール後に利用可能な他の中継オプションがいくつかあります。ユーザが動的 IP アドレスを使ってダイアルアップしているために**[(アドレス) へメールを中継]**ができない場合は、**[メール中継なし]**が最適のオプションです。

メール中継オプションとその他のセキュリティ機能についての詳細は、「**IMail Administrator ヘルプ**」をご参照ください。

SMTP 認証

セキュアなデータの通信ためには、IMail Server 上で SMTP 認証が有効となっている限り、SMTP 認証によりお客様は、お客様のメールサーバを通じてメールを送信しようとしている個々のユーザを検証できます。ユーザは、SMTP ログインを実行するように自身のメールクライアントを設定する必要があります。例えば、Microsoft Outlook では、**[ツール]>[アカウント]>[メール]>[プロパティ]>[サーバ]** タブで、オプション **[このサーバは認証が必要]**を選択します。

SMTP 認証は、以下の場合に使用されます。

- SMTP 中継について **[メール中継なし]** を使用する場合。
- **[(アドレス) へメールを中継]** オプションを使用する場合、SMTP 認証により登録していない IP アドレスから送信するユーザ、例えば、旅行中のユーザや静的 IP アドレスを持っていないユーザから送信されるメールを受け入れることができます。

IMail Server および Web Messaging 用のSSL

IMail Server と Web Messaging では、IMail Web クライアントとサーバの間の通信を暗号化するために Microsoft Internet Information Services (IIS) Secure Sockets Layer (SSL) 機能が使用されています。IIS を使った SSL の使用についての詳細は、IIS ヘルプ情報をご参照ください。

ステップ 6 : メールホストが 1 つの場合と複数の場合

1 つの IMail Server システム上で複数のドメインを所有できます。この機能により、組織ごとに別々のメールサービスを提供することが可能です。ドメインは、1 次ドメインのインストール完了後に IMail Server に追加できます。

追加ドメインの設定についての情報と他の詳細設定オプションについての情報については、**[IMail Administrator ヘルプ]**をご参照ください。

IMail Server のインストール

In This Chapter

ステップ 1:インストールの開始と IMail の起動.....	17
ステップ 2:Web サーバの設定	19
ステップ 3:サーバの正式ホスト名の設定	19
ステップ 4:ユーザデータベースの選択	19
ステップ 5:セキュリティオプションの設定	20
ステップ 6:使用する IMail サービスの選択	21
ステップ 7:最終オプション	22
Instant Messenger ユーザデータベース (IMail Premium のみ)	22
WorkgroupShare クライアント設定(IMail Premium のみ)	23

ステップ 1:インストールの開始と IMail の起動

<注記> システム管理者として Windows システムにログオンするか、システム管理者特権でアカウントにログオンします。

- 1 Windows レジストリのバックアップを取ります。(regedit を実行し、[レジストリ] メニューから [レジストリファイルをエクスポート] を選択します。)
- 2 以下のいずれかを実行します。
 - IMail Server CD をお買い求めの場合は、その CD を CD/DVD ドライブに挿入します。CD が自動的にインストールウィザードを開始しない場合は、[スタート]>[実行] をクリックし、次に、autorun.exe があとに続く文字を CD/DVD ドライブに入力します。例えば、D:\autorun.exe と入力します。
 - Ipswitch Web サイトからプログラムをダウンロードしている場合は、ダウンロードファイルをダブルクリックします。

<注記> アップグレード中ならば、製品をアクティブにする新しいライセンスキーを受け取る
こととなります。ライセンスキーを入力して、次に、インストールを完了するために **[次へ]** をクリックします。サービス契約に基づくお客様は、**www.ipswitch.com/dlc** で新しいキーを入手できます。

- 3 ウェルカム画面が表示される前に、レジストリチェッカーがバックグラウンドで実行され、システム要件がすべて適正であることを確認されます。ダウンロードサイトのアクセス場所のサポートについては、最新のリリースが提供されている

<http://www.ipswitch.com/support/imap/index.asp>

『**<http://www.imailserver.com/Support/>**』のIMail サポートセンターをご覧ください。

- 4 ウェルカム画面が表示され、ソフトウェアをアクティブにするオプションが提供され、リリースノートおよび本導入ガイドが表示されます。この時点でアクティブにしない場合は、30 日間使用できますが、その後はサービスが終了します。

IMail CD をお買い求めの場合、ライセンスキーはアクティベーションカードに記載されています。インストールウィザードの間に、製品アクティブ化ダイアログで、IMail をアクティブにすることになるでしょう。ライセンスキーを入力して、次に、インストールを完了するために **[次へ]** をクリックします。

または

Ipswitch Web サイトからの IMail プログラムのダウンロードの場合、ライセンスキーはブラウザページに表示されており、お客様宛てに電子メールでお知らせします。インストールウィザードの間に、製品アクティブ化ダイアログで、IMail をアクティブにすることになるでしょう。ライセンスキーを入力して、次に、インストールを完了するために **[次へ]** をクリックします。

- 5 **[次へ]** をクリックすると、ライセンス許諾契約が表示されます。確認して、同意したら **[次へ]** をクリックします。
- 6 選択した機能画面では、インストールができるコンポーネントが表示されます。デフォルトによって、すべてにチェックが入りますが、不必要な機能を選択解除してください。次に **[次へ]** をクリックします。

<注記> IMail Server ではインストールのためのオプションのコンポーネントは表示されない
ことにご注意ください。IMail 用 Antivirus などの追加製品をすでにご購入の場合、購入済み商品用に個別の説明がこのガイドのあとで個別に表示されます。

- 7 **[転送先の場所を選択]** ダイアログでは、IMail Server をインストールするデフォルトディレクトリパスを受け入れる、ディレクトリを入力する、あるいは IMail Server をインストールするディレクトリを参照する、かのいずれかを選択します。次に、**[次へ]** をクリックします。

<注意> このディレクトリは、インストール後に移動させたり、名前を変更したりできません。

ステップ 2 :Web サーバの設定

IIS ユーザアカウントの選択

- 1 IIS で設定された Web サイトが複数ある場合、ダイアログでは、インストールウィザードにより IIS で設定された Web サイトが複数検出された则表示されます。
IMail Administrator および クライアントアプリケーションをインストールする Web サイトを選択します。リストから選択された Web サイトが、Web Administrator と Web クライアントアプリケーションへのアクセスのためにログインするデフォルトの Web サイトとなります。**[次へ]** をクリックします。
- 2 IIS ユーザアカウントを選択すると、選択画面は、デフォルト IIS ユーザ IUSR_ComputerName を使用するか、起動のために別なユーザを使用するかを求めます。

[別なユーザを使用する] のオプションを選んだ場合は、別のウィンドウに進み、NT システムユーザ、あるいは AD ドメインユーザのいずれかのユーザ名にログオンすることができます。このオプションでは、ユーザ許可を手動で設定しなければなりません。このオプション、および IIS の手動設定に関する詳細情報については、リリースノートをご参照ください。

- 3 次に、インストールダイアログにより、IIS と全依存サービスを自動的に再起動するかしないかを選択するよう求められます。**[はい]** を選択して、WWW、FTP、SMTP などの他の全ての依存サービスに加えて、IIS の再起動を設定することをお奨めします。

ステップ 3 :サーバの正式ホスト名の設定

このインストール画面、**[電子メールアドレス (正式ホスト名)]** により、IMail Server インストール用の 1 次ホストの正式なホスト名を確認し、入力するよう求められます。

正式ホスト名が分からない場合は、「インストールの計画」『on page 5』セクションのステップ 2: 「メールサーバで使用する DNS 項目の作成」『on page 6』をご参照ください。

複数ホストが必要な場合は、1 次ホストのインストール完了後に、別な "ホスト" および "仮想ホスト" を追加できます。

ステップ 4 :ユーザデータベースの選択

次の画面 (**[データベースオプション]**) では、適切なユーザデータベースをオプションを選択するよう求められます。「インストールの計画」セクションのステップ 3: 「ユーザデータベースの種類の選択」『on page 10』をご参照ください。以下のデータベースオプションから選択します。

IMail 導入ガイド

- **Windows NT ユーザデータベース** - IMail Server により、NT データベースに登録されているユーザごとにユーザのメールアカウントが作成されます。ユーザを追加したり、削除したりするには、**Windows NT User Manager** を使用する必要があることにご注意ください。IMail Administrator を使用して NT データベースにユーザを追加したり、データベースからユーザを削除したりできません。
- **IMail ユーザデータベース** - メールアカウント用のユーザ ID とパスワードが、IMail Administrator を使用して作成され、IMail Server のデータベースに格納されます。
- **外部データベース (ODBC コンプライアント)** - IMail では、ユーザを登録、認証するために外部データベースが使用されています。IMail Administrator を使って追加・削除されるユーザは、外部データベースに追加されたり、外部データベースから削除されたりします。またその逆もあります。

[外部データベース] を選択する場合、そのデータベースサーバにログオンするためのユーザ ID とパスワードに加え、そのデータベース用に **ODBC システム DSN** を指定する必要があります。IMAILSECDB は、IMail ODBC リンクが使用するデフォルトの名前です。例えば、システム DSN の場合、以下のように入力します。
`imailsecdb;UID=imailuser;PWD=password`

<注記> ドメインが外部データベースを使用している場合、インターネットゲストアカウント (IUSR_<computer name>) には、そのデータベースが存在するディレクトリ用に設定されたフルアクセス許可が必要です。例えば、外部データベースが `c:\somewhere` にある場合、Internet Guest Account にはそのディレクトリに対するフルアクセス許可が必要です。

- **アクティブディレクトリデータベース** - IMail Server は、Root Directory Service Entry (DSE) から一覧表示された各アクティブディレクトリユーザのユーザメールアカウントを作成します。**[ドメインプロパティ] > [ユーザデータベースタイプ] > [NT/AD データベース(ドロップダウンリスト)] > [ネーミングコンテキスト]** にある Web Administrator でこのデフォルトを変更することができます。アクティブディレクトリの [IMail Administrator] を使用して、ユーザを追加したり削除することはできません。

<注記> IMail Server は、現在ビルトインのアクティブディレクトリユーザを表示しないように設計されています。アクティブディレクトリユーザプロパティの詳細な説明の前部に "built-in" という語句をを追加しなければなりません。

ステップ 5: セキュリティオプションの設定

IMail Server は、Web カレンダークライアントを IMail Web カレンダーサーバにより安全に接続することができる **SSL (セキュアソケットレイヤ)** 機能を提供します。SSL 機能は、Windows レジストリに格納されている鍵に依存しており、鍵は SSL サーバのロードプロセスの際に検索されます。

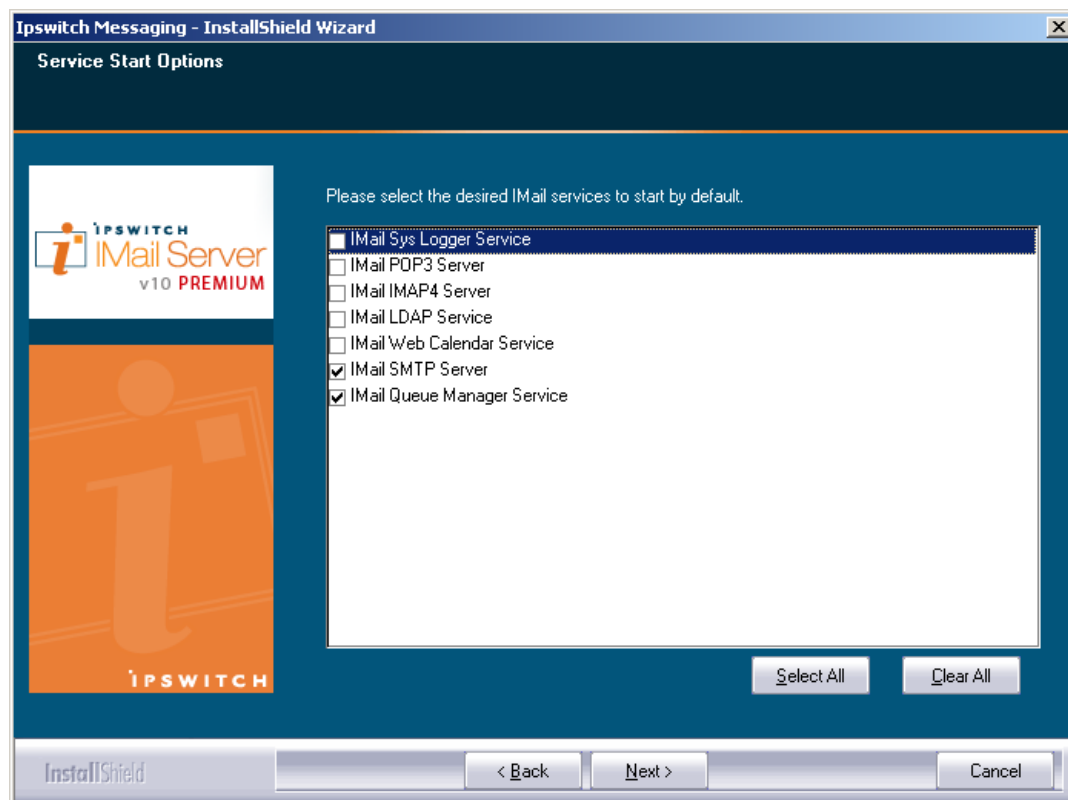
IMail 導入ガイド

次の [設定タイプ] 画面で、**初期 SSL 鍵の設定**について、以下のオプションの 1 つから選択して、SSL 鍵をインストールするかどうか求められます。

- **[いいえ]**、既にサードパーティー製の SSL 証明書を所有している場合。IMail Server のインストール後に、**[スタート] > [プログラム] > [IMail Server] > [IMail SSL Configuration Utility]** の順でクリックします。
- **[はい]**、サードパーティー製の SSL 証明書を所有していないが、“自己署名型” SSL 証明書を使用して IMail Web サーバを実行する場合。
- 判断する前に SSL についてもっと知りたい場合には、**[いいえ]**をクリックします。後で初期鍵をインストールすることができます。

ステップ 6 :使用する IMail サービスの選択

[サービススタートオプション] 画面上に、お客様の IMail Server で既に実行中の IMail サービスのリストが表示されます。以前に IMail Server をインストールしたことがない場合は、選択済みのサービスは、IMail SMTP Server と IMail Queue Manager Service となります。デフォルトで IMail Server と共に開始させる他のサービスを選択します。



<注記>インストール後もいつでもデフォルトのサービスを指定できます。ただし、電子メールを送受信するには、最低限、**[IMail SMTP]**、**[Queue Manager Services]** および **[POP3 Server]** ボックスはチェックする必要があります。

IMail 導入ガイド

サービス選択後、[選択プログラムフォルダ] 画面が表示されます。新規のショートカットを作成するには、**[設定]**がある場所を選択し、**[次へ]**をクリックします。これで、IMail Server が設定され、インストールが完了します。

ステップ 7 :最終オプション

プロキシサーバ

プロキシサーバを使用している場合は、表示されるテキストボックスにプロキシサーバ IP アドレスおよびポートを入力してくださいこれによって、メッセージサービスへのアクセスができます。例 : 196.168.100.55:80

スタートメニューとショートカット

[選択プログラムフォルダ] では、IMail Server インストール用の新規のショートカットを作成する設定ができます。

新規のフォルダ名を入力するか、あるいは既存のフォルダのリストから選択できます。

システムに管理者とユーザを追加

IMail Database オプションを選択すると、**[管理者の追加]** および **[ユーザの追加]** ダイアログが表示されます。管理者を追加する必要があります。インストールをテストできるように、“代替” ユーザを 2～3 追加することをお勧めします。インストール後もいつでもユーザを追加できます。画面に表示される指示に従います。

システムの再起動

システムを再起動するように要求されることがありますが、これはインストールでファイルを適切に設定できていない場合に生じます。多くの場合、この問題はダイナミックリンクライブラリ (DLL) が原因で生じます。IMail Server が必ず正しく動作するようにするため、できるだけ早いうちに再起動してください。

Instant Messenger ユーザデータベース (IMail Premium のみ)

IMail Premium をインストールしている場合は、Instant Messenger ユーザ認証のためのユーザデータベースを選択する **[設定タイプ]** 画面が表示されます。以下のオプションが表示されます：

IMail 導入ガイド

- **Ipswitch Instant Messaging サーバ** - Ipswitch Instant Messaging サーバが選択されている場合、IM アカウント用のユーザ ID およびパスワードが保存され、IpswitchInstant Messaging データベース(レジストリの)から認証されます。
- **Windows NT ユーザデータベース** - Windows NT ユーザデータベースを選択した場合は、Instant Messaging サーバは、Windows NT データベースにリストされた各ユーザのユーザ IM アカウントを作成します。IM アカウント用のユーザ ID およびパスワードが保存され、Windows NT データベース(レジストリの)から認証されます。

<注記> このオプションでは、IMail Server を使用して、ユーザの追加や削除ができません。ユーザの追加や削除には、Windows NT User Manager を使用する必要があります。

- **IMail Server (デフォルト選択)** - IMail Server データベース(レジストリの)の IM アカウント用のユーザ ID およびパスワードをすべて保存および認証します。

IMail ユーザデータベースを選択して、ユーザ認証をすることをお勧めします。

WorkgroupShare クライアント設定(IMail Premium のみ)

Microsoft Outlook でカレンダーと連絡先などのデータを共有し使用するには、各コンピューターに WorkgroupShare クライアントをインストールしなければなりません。

この [設定タイプ] 画面には、デフォルトパスの、**C:\Program Files\Ipswitch\Messaging\WorkgroupShare\ClientSetup** に WorkgroupShare クライアント設定フォルダを共有するオプションがあります。

Ipswitch は、クライアントの効率性を目的としてネットワークを介してフォルダを共有することを推奨します。

IMail Server のインストールのテスト

In This Chapter

DNS 設定の確認	25
IMail Server のインストールの確認	27
ユーザデータベースの設定の確認	29
テストアカウントを使用したメールの送受信	31
アップグレード	32
IMail Server のアンインストール	35

DNS 設定の確認

本章では、IMail Server の設定が動作していることを確認するためのクイックテストをいくつか取り上げます。DNS の詳細については、『メールサーバの DNS 使用法』をご参照ください。IMail Server の DNS レコードをチェックするために、以下のツールのいずれかを使用できます：

- **WS_Ping ProPack**。WS_Ping ProPack の体験版を既にインストールしている場合は、この診断ツール一式の一部である 参照ツールが使用できます。
- **Nslookup**。Windows 2000、Windows 2003、Windows XP では、“nslookup” コマンドを使用できます。

WS_Ping ProPack を使って DNS 設定をチェックするには：

- 1 **[スタート]** メニューから、**[プログラム]>[WS_Ping ProPack]> [WS_Ping ProPack]** とクリックし、次に**[参照]** タブをクリックします。
- 2 ドメイン名が正しいホスト名を指定していることを確認するために、**[MX レコード]** を表示します。次のように入力します。
 - a) 名前または **IP アドレス** ドメイン名を入力します (例、domain.com)。
 - b) **DNS サーバ**。使用するドメイン名サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。

IMail 導入ガイド

- c) クエリ-タイプ。リストから **[MX]** を選択します。
- d) **[スタート]** をクリックします。以下のような情報が表示されます。
`>domain.com,
10,mail.domain.com`
- 3 **[A レコード]** を表示し、ホスト名が正しい IP アドレスを指定していることを確認します。次によりに入力します。
 - a) 名前 または IP アドレス:IMail Server ホストの正式なホスト名 (例えば、**mail.domain.com**) を入力します。
 - b) **DNS サーバ**:使用するドメイン名サーバのホスト名または IP アドレスを入力するかまたはオペレーティングシステムのネットワークスタックを使用するためにドロップダウンリストから **[スタック]** を選択します。
 - c) クエリタイプ:リストから **[A]** を選択します。
 - d) **[スタート]** をクリックします。以下のような情報が表示されます。
`>mail.domain.com
156.21.50.10`
- 4 **[PTR レコード]** を表示し、IP アドレスが正式なホスト名を指定していることを確認します。次によりに入力します。
 - a) 名前 または IP アドレス:IMail Server ホストの IP アドレスを入力します (例えば、**156.21.50.10**)。
 - b) **DNS サーバ**:使用するドメイン名サーバのホスト名または IP アドレスを入力するかまたはオペレーティングシステムのネットワークスタックを使用するためにドロップダウンリストから **[スタック]** を選択します。
 - c) クエリタイプ:リストから **[PTR]** を選択します。
 - d) **[スタート]** をクリックします。以下のような情報が表示されます。
`>10.50.21.156.in-addr.arpa.
host = mail.domain.com.`
- 5 エラーはすべて記録します。自身の DNS サーバをホストしている場合は、項目を修正します。DNS サービスが ISP でホストされている場合は、IPS に連絡して、変更を依頼してください。

“nslookup” ツールを使用して DNS 設定をチェックするには :

- 1 Windows の “nslookup” コマンドを実行して **[MX レコード]** を表示します。ドメイン名が正しいホスト名を指定していることを確認するために、**[MX レコード]** を表示します。例えば、以下によりに入力します。
`nslookup
>ls -t MX domain.com`
このコマンドは、以下のような情報を戻します。
`>domain      MX 10      mail.domain.com`
- 2 Windows の “nslookup” コマンドで **[A レコード]** を表示し、ホスト名が正しい IP アドレスを指定していることを確認します。

IMail 導入ガイド

```
nslookup
>ls -t A mail.domain.com
```

このコマンドは、以下のような情報を戻します。

```
>mail.domain.com A 156.21.50.10
```

- 3 Windows の“nslookup” コマンドで **[PTR レコード]** を表示し、IP アドレスが正式なホスト名を指定していることを確認します。

```
nslookup
>ls -t PTR 156.21.50.10
```

このコマンドは、以下のような情報を戻すはずですが、

```
>mail.domain.com PTR 156.21.50.10
```

- 4 エラーはすべて記録します。自身の DNS サーバをホストしている場合は、項目を修正します。DNS サービスが ISP でホストされている場合は、IPS に連絡して変更を依頼してください。

IMail Server のインストールの確認

<注記>初めて IMail Server Administrator を開始する際に、(Microsoft Windows 2003 の Internet Explorer をお使いの場合は)、“Internet Explorer Enhanced Security Configuration は有効”のブラウザ画面が表示される場合があります。この画面が表示されたら、このブラウザの強化されたセキュリティ設定オプションについての詳細を知るためにこのリンクをクリックします。IMail Server Administrator の URL を [ローカルイントラネット] または [トラステッドサイト] ゾーンの [包括リスト] に追加しなければならない可能性があります。

IMail Server のインストールを確認するには、次の手順に従います。

- 1 **[スタート] メニューから、[プログラム]> [Ipswitch IMail Server]> [IMail Server Administration]**と選択します。
または
[スタート] メニューから、[プログラム]> [Ipswitch Collaboration Suite]>[IMail Server]> [IMail Server Administration]と選択します (ICS の以前にインストールしたバージョンをお持ちの場合)。Ipswitch Web Admin のログインページが表示されます。
- 2 ユーザ名とパスワードを入力します。IMail Premium の場合には、**[インストール済み Ipswitch 製品]** ページが表示されます。**[IMail Server]** をクリックします。
IMail または IMail Plus の場合は、**[Ipswitch 製品]** ページが省略され、**[IMail Server Administrator]** ページが表示されます。
- 3 **[IMail Server Administrator]** ページには、一般的な管理者タスクのリストが表示されています。サーバ管理オプションにアクセスするために、タスクを選択するかタブをクリックできます。タブを選択すると、左側のナビゲーションバーにタブに関連したオプションへのリンクが表示されます。下記で説明する **[ユーザ管理]** ページ

IMail 導入ガイド

ジなど場合、関連の管理ページへとドリルダウンするには、左側のナビゲーションバーのリンクをクリックします。

Return to All Domains

Domain Properties

► **User Administration**

Default User Settings

User Utilities

Spam Filtering

Alias Administration

List Administration

LDAP Settings

Attachment Blocking

Inbound Rules

Outbound Rules

White List

Peer List

Help

User Administration Settings

ip245.com

Wildcard Search: [] Search Clear

☐	Username	Name	System Admin	Domain Admin	List Admin	Disabled
☐	domain	Domain 245	No	Yes	No	No
☐	new245	New 245	No	No	Yes	No
☐	root	System Administrator	No	No	No	Yes
☐	user245	User 245	No	No	No	No
☐	whatever	What Ever	No	No	No	No

Add... Delete...

© 2005 Copyright Ipswitch Inc. All Rights Reserved. Ipswitch.com | Help System | Knowledge Base | iCare

- 4 **【ドメイン管理】**をクリックします。**【ドメイン】**ページが開き、利用可能なメールアドレスのリストが表示されます。
- または

Return to Home

IMAil Domains

Help

Domains

Select a domain to administer Users, Aliases, Lists, LDAP Settings, Rules, Attachment Blocking, and Spam Filtering settings.

Using IMAil Domains

Administering IMAil Users

Adding a New IMAil User

Domains

Search: [] Search Clear

☐	Name ▲	Top Directory	IP Addresses
☐	dina.auqusta.ipswitch.com	C:\Program Files\Ipswitch\Messaging\IMail	192.168.6.246
☐	ip245.com	C:\Program Files\Ipswitch\Messaging\IMail\ip245.com	192.168.6.245
☐	virtual.com	C:\Program Files\Ipswitch\Messaging\IMail\virtual.com	\$virtual001
☐	virtual2.com	C:\Program Files\Ipswitch\Messaging\IMail\virtual2.com	\$virtual002

Add... Delete...

© 2005 Copyright Ipswitch Inc. All Rights Reserved. Ipswitch.com | Help System | Knowledge Base | iCare

【ドメイン】タブにマウスを合わせます。デフォルトのメールアドレス (または、直前に選択されたメールアドレス) が **【ドメイン】** タブリストに表示されます。別のメールアドレスへの変更をお望みの場合は、**【ドメイン管理】** をクリックします。

IMail 導入ガイド

- 5 1 次ホストとして設定するメールドメイン (例えば、mail.domain.com) をクリックします。[ドメインのプロパティ] ページが開きます。以下をチェックします。
 - ドメイン名 (正式ホスト名 または **OHN**)。この名前が IMail Server をインストールしたコンピュータのホスト名と一致することを確認します。
 - ドメインエイリアス (ホストエイリアス) 1 次ホストのユーザがこのドメイン名をアドレスとするメッセージを受け取るようにする場合は、このホスト用のエイリアスを作成します。

メールドメイン構成の設定についての詳細は、「IMail Administrator ヘルプ」を参照してください。

ユーザデータベースの設定の確認

メールの送受信が可能かどうかを検証するには、1 次ホストに最低でも 1 人分のユーザ設定が存在している必要があります。

1 次ホストが IMail ユーザデータベースを使用している場合は、インストール中にユーザを作成した可能性があります。

IMail ユーザデータベースに IMail ユーザが作成されたかどうかを確認します。

- 1 「IMail Server のインストールの確認」『on page 27』で説明されているように、選択された 1 次メールドメイン (ホスト) で、左側のナビゲーションバーの[ユーザ管理]をクリックします。[ユーザ管理] ページが開きます。

Return to All Domains

Domain Properties

User Administration

Default User Settings

User Utilities

Spam Filtering

Alias Administration

List Administration

LDAP Settings

Attachment Blocking

Inbound Rules

Outbound Rules

White List

Peer List

help

User Administration Settings

Logged in as: localhost | Log out

Home System Domain Anti Spam Collaboration Services Logging About

User Administration ip245.com

Wildcard Search: Search Clear

☐	Username	Name	System Admin	Domain Admin	List Admin	Disabled
☐	domain	Domain 245	No	Yes	No	No
☐	new245	New 245	No	No	Yes	No
☐	root	System Administrator	No	No	No	Yes
☐	user245	User 245	No	No	No	No
☐	whatever	What Ever	No	No	No	No

Add... Delete...

© 2005 Copyright Ipswitch Inc. All Rights Reserved. ipswitch.com | Help System | Knowledge Base | iCare

IMail 導入ガイド

“root” ユーザしかない場合は、次の手順に従ってテストユーザを追加します。

- 2 [追加] をクリックし、次に [IMail ユーザ追加] ページでユーザ情報を入力します。ユーザ ID は、ハイフンやスペースを入れない 1 ～ 30 文字でなければなりません。

The screenshot shows the 'Add IMail User' web interface. The page has a header with the Ipswitch logo and 'IMail Server' text. A sidebar on the left contains a 'Help' link. The main content area is titled 'Add IMail User' and shows the following fields and options:

- Domain Name (OHV): dina.augusta.ipswitch.com
- User ID: doodle
- Full name: Doodle Bug
- Password: [masked with dots]
- Confirm password: [masked with dots]
- ☒ Add as Collaboration User
- ☒ Add as Ipswitch Instant Messaging User
- Maximum Mailbox Size: Unlimited
- Maximum Mailbox Messages: Unlimited
- Encoding: Unicode (UTF-8)
- Permissions (checkboxes):
 - ☒ Allow Password Change
 - ☒ Grant Account Access
 - ☒ Access Information Services
 - ☒ Access LDAP Attributes
 - ☒ Allow Web Calendaring
 - ☒ Allow Use of Ipswitch Instant Messaging
 - ☒ Allow Web Access
 - ☐ List Administrator Permissions
 - ☐ Domain Administrator Permissions
 - ☐ System Administrator Permissions

At the bottom, there are 'Save' and 'Cancel' buttons. The footer contains copyright information and links to the Ipswitch website, help system, knowledge base, and care page.

- 3 ユーザを追加するには、[保存] をクリックします。このユーザ ID は、1 次ホストの登録ユーザのリストに追加されます。
あとでユーザの設定を表示したり、変更したりする場合は、[ユーザ管理] ページの [ユーザ名] リストでユーザをクリックします。

1 次ホストで **Windows NT** または **Active Directory** ユーザデータベースが使用されている場合は、デフォルトのアカウントは以下の 2 つになるはずです。すなわち、**Administrator** と **Guest** です。テスト用にユーザを追加する必要がある場合は、適切な Windows 管理ツールにアカウントを追加します。

<注記>Windows NT データベースと Windows 2000 データベースでは異なるデータベース管理ツールを使用しています。お客様の Windows NT または 2000 のユーザデータベースでユーザの現在のリストを表示したり、ユーザを追加したり、ユーザを削除したりするには、Windows の説明書の説明に従って適切な管理ツール (例えば、Windows NT User Manager または Active Directory users and computers) を使用します。IMail Administrator を使ってユーザを表示、追加、削除できません。

1 次ホストが外部データベースに基づいている場合および外部データベースが投入されていない場合、次の手順に従います。

- 1 [IMail Administrator] で、[ユーザ管理] ページの 1 次ホストの [ユーザ名リスト] に進みます。
- 2 数人のユーザを追加します。

IMail 導入ガイド

追加したユーザは、Windows で指定したホスト名で IMail Server からメールを受信できます。例えば、ユーザ **john** を追加し、そのホスト名が **mail.domain2.com** の場合、このユーザは **john@mail.domain2.com** というアドレスのメールを受信できます。

<注記>1 次ホストのユーザがこのドメイン名のみをアドレスとするメッセージを受け取るようにする場合は、この仮想ホスト用のエイリアスを作成します。例えば、上記のユーザが **john@domain2.com** 宛のメールを受け取るようにする場合は、**mail.domain2.com** に対して **domain2.com** のドメインエイリアス (ホストエイリアス) を作成します。IMail Server の設定についての詳細は、「IMail Administrator ヘルプ」のメールドメイン (ホスト) 設定情報をご参照ください。

テストアカウントを使用したメールの送受信

テストアカウントを使用してメールを送受信するには、次の手順に従います。

- 1 電子メールサーバが稼働していることを確認します。
- 2 **[サービス]** タブをクリックし、ネットワークユーザ名とパスワードを入力します。**[サービス管理]** ページが開きます。

Name	CurrentState	Version
IMail IMAP4 Server	Running	10.0
IMail Web Calendar Service	Running	10.0
IMail LDAP Service	Stopped	2.1.22
IMail POP3 Server	Stopped	10.0
IMail Queue Manager Service	Running	10.0
IMail SMTP Server	Running	10.0
IMail Sys Logger Service	Stopped	10.0
Ipswitch WorkgroupShare Service	Running	
Premium Anti Spam Service	Running	
Ipswitch Instant Messaging Server	Running	

Start Stop

Starting or Stopping multiple services may take a moment.

- 3 SMTP、POP3 および IMAP4 サービスが稼働しているかどうかを見るためにチェックします。ステータスが **[現在のステータス]** 列に表示されます。SMTP ステータスが自動的に起動され、“**Running**” となっているはずです。POP3 と IMAP4 が “**Running**” でない場合は、各サービスの隣のチェックボックスを選択して、**[スタート]** をクリックします。

IMail 導入ガイド

- 4 電子メールクライアントを起動します。

IMail Web Messaging (Web クライアント) を使用している場合、Web ブラウザを起動し、次に **http://localhost/IClient/**

または

http://<IMail Server hostname>/IClient/

に入ります。例えば：

http://123.100.100.80/IClient/、次に **ENTER** を押します。Ipswitch Web Admin のログインページが表示されます。

- 5 作成したユーザアカウントのいずれか **1** つを使用してログオンし、他のユーザにメールを送信します。その後、そのメールが電子メール受信 **Inbox** に表示されるかどうかを確認します。

<注意 IMail Client コンソールアプリケーションのバージョンが IMail Server にインストールされます。“root”のメールボックスを読んだり、ほとんど使用されていないアカウントの処理やテストを行うときに役に立ちます。IMail クライアントアプリケーションは、エンドユーザのメールボックスを表示する目的では IMail Server 上で使用しないでください。同じメールボックスに対してリモートアクセスが行われている場合、(ユーザのリモートクライアントのソフトウェアによっては) 問題が生じる可能性があります。

- 6 ローカルネットワークの外部のリモート電子メールアドレスへのメールサービスをテストするには、テストメッセージを送信します。インターネットに接続している場合は、**imailtest@ipswitch.com** にメールを送信します。
- 7 メールサーバが正常に動作していることが確認できれば、必要な電子メールドメイン (ホスト) とユーザを追加します。

アップグレード

このセクションは、旧バージョンの IMail Server からアップグレードするユーザを対象としています。IMail Server は、旧バージョンまたは体験版がインストールされていたディレクトリに自動的にインストールされます。このディレクトリの変更、移動、または名前の変更を行わないでください。

- 1 レジストリキー、HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Ipswitch\IMail のバックアップを取ります。(regedit.exe を開始し、このキーを検索し、[レジストリ] メニューから [レジストリファイルをエクスポート] を選択します。)
- 2 新規インストールに使用されるものと同じ指示に従います。

<注記>必ずすべての IMail サービスを停止し、IMail Administrator インターフェースを閉じてから、アップグレードを行う必要があります。

外部データベースを使用したアップグレード

1 人以上のホストが外部ユーザデータベースを使っている前のバージョンに IMail Server を再インストールする場合、データベーステーブルに新しい列を追加する必要があります。これは、Web カレンダー機能での使用に備えて追加のユーザを格納する必要があるためにです。この新しい列は、外部データベースを使用している IMail Server ホストごとにユーザテーブルに追加されなければなりません。

ユーザデータベースとしてアクティブディレクトリ (AD) をお使いの場合は、設定画面の [アクティブディレクトリ] オプションのご使用を強くお勧めします。この新しいオプションにより、AD のサポートがかなり強化され、Web サーバ上のセキュリティも強化され、パフォーマンスがかなり改善されます。

インストールの間、IMail Server により、お客様のシステムが現在外部データベースを使用するかどうかが決まります。その答えが [はい] の場合は、次にダイアログにより以下の 3 つのオプションが表示されます。

- このインストールプログラムにより自動的に列が IMail Server ユーザ設定に格納するために使用されるすべての外部データベーステーブルに追加されるようにするには、[はい] をクリックします。
- テーブルをアップデートせずにインストールを続行するには、[いいえ] をクリックします。
- 必要な列を手動で追加する場合は、[キャンセル] をクリックします。必要な列がリリースノート内に見つかります。準備ができれば、このインストールプログラムを再起動する必要があります。

<警告> [いいえ] をクリックして、そのままインストールした場合、IMail Server が適切に機能しない可能性があります。

カスタム ODBC ドライバが IMail Server の旧バージョンで使用されていた場合、このドライバは、新しい列を使用するように修正する必要があります。基本の ODBCUser.dll ドライバのソースコード (SQL サーバおよび Access 用に調整済みの) は、以下の URL で IMail サポートセンターからダウンロードできます：

ftp://ftp.ipswitch.com/lpswitch/Product_Support/IMail/odbcuser.dll

ftp://ftp.ipswitch.com/lpswitch/Product_Support/IMail/odbcuser.dll

LDAP データベースのアップグレード

IMail 8.1 以降では、OpenLDAP 実装が使用されています。アップグレード後に残しておく情報がある既存の LDAP データベースがあれば、以下の予防措置をとります。予防措置をとらなければ、既存の LDAP 情報は削除されます。

IMail 導入ガイド

- アップグレード前に LDAP データベースのバックアップを取ります。LDAP データベースにアクセスするには、OpenLDAP ファイルが置かれているディレクトリの場所を入力します。デフォルトでは、ICS のインストールパスは、C:\Program Files\Ipswitch\Collaboration Suite\IMail\OpenLDAP です。IMail のインストールパスは、C:\Program Files\Ipswitch\IMail\OpenLDAP です。以下のフォルダは、...\OpenLDAP ...\OpenLDAP フォルダの下におかれます。
 - **binOpenLDAP** バイナリが格納されるフォルダ。
 - **Openldap-data** ドメイン固有のデータベースのあるフォルダがすべて格納されているフォルダ。各フォルダは、それぞれ既存のドメインにちなんで名付けられています。
 - **schemaOpenLDAP** スキーマファイルが格納されるフォルダ。スキーマファイルは各オブジェクトのプロパティを決めるテキストファイルです。
 - **SharelucdataLDAP** サーバ用サポートデータファイルが含まれます。こういったファイルは変更しないようにしてください。
- アップグレードする前に **[LDAP 属性にアクセスする]** オプションをクリアします。IMail Administrator でこのオプションにアクセスするには、**[ドメイン]** タブにマウスを合わせ、**[ユーザ管理]** をクリックし、次に、左側のナビゲーションバーで、**[標準ユーザ設定]** をクリックします。**[標準ユーザ設定]** ページが開きます。アップグレードする前に **[LDAP 属性にアクセスする]** オプションをクリアするためにクリックします。

<警告> **[いいえ]** をクリックしてそのままインストールする場合、IMail Server が正しく機能しない可能性があります。

アンチスパム機能のアップグレード

以前に IMail Server をインストールしたことがある場合、*antispam-table.txt* ファイルを上書きするかどうかを決める必要があります。インストール中、ダイアログが表示され、既存の *antispam-table.txt* ファイルを上書きするために以下のオプションが示されます。

- **[マージ]** 新しいワードを既存のファイルに追加します。既存の項目を削除したり、変更したりしません。
- **[上書き]** 既存のファイルに上書きします。このファイルでワードを追加したり、ワード値を変更した場合、こういった追加や変更は上書きされるか削除されます。
- **[無視]** ファイルを変更しません。

<注記> インストール後に、*antispamseeder.exe* ユーティリティーを使って、現在の *antispam-table.txt* ファイルに新しいワードカウントを手動でマージできます。詳細については、「IMail Administrator ヘルプ」を参照してください。

IMail Server のアンインストール

IMail Server を削除するには、Windows の [コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] アプレットを使用します。以下の処理が行われます。

- [コントロールパネルサービス] から IMail サービスが削除されます。
- HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Ipswitch\IMail の下の Windows レジストリにある全ての項目が削除されます。(ただし、Ipswitch キーは削除されません)
- setup.exe によって作成されたディレクトリとファイルに何も追加されていない場合は、これらのディレクトリとファイルが削除されます。例えば、ユーザを追加しなかった場合 (および **root** がメールを受け取ったことがない場合) は、**Users** ディレクトリが削除されます。

<注記>上記のように IMail Server を削除しても、IMail ディレクトリやそのディレクトリに含まれているサブディレクトリとファイルは削除されません。これらのディレクトリやファイルを削除するには、手動で削除する必要があります。

IMail Antivirus の使用

In This Chapter

IMail Antivirus について	37
IMail Antivirus Administration	37
Symantec Scan Engine Web Administrator.....	38

IMail Antivirus について

IMail Secure Server または ICS Premium 2006.1 リリース以前をご購入の場合、お客様のメールサーバには、最も包括的なウィルススキャナーの 1 つが利用できる Symantec の ScanEngine が搭載されています。IMail 製品ファミリーの 2006.2 リリース以降、IMail の Premium Antivirus (Symantec の ScanEngine) が個別に利用できますが、まだ IMail とシームレスに統合しています。

IMail Antivirus searches all incoming and outgoing mail for viruses, worms, trojan horses, and other destructive code. IMail Antivirus では、全メールメッセージとファイル拡張子のリストと既知のウィルス定義を比較して、この検索を実行します。

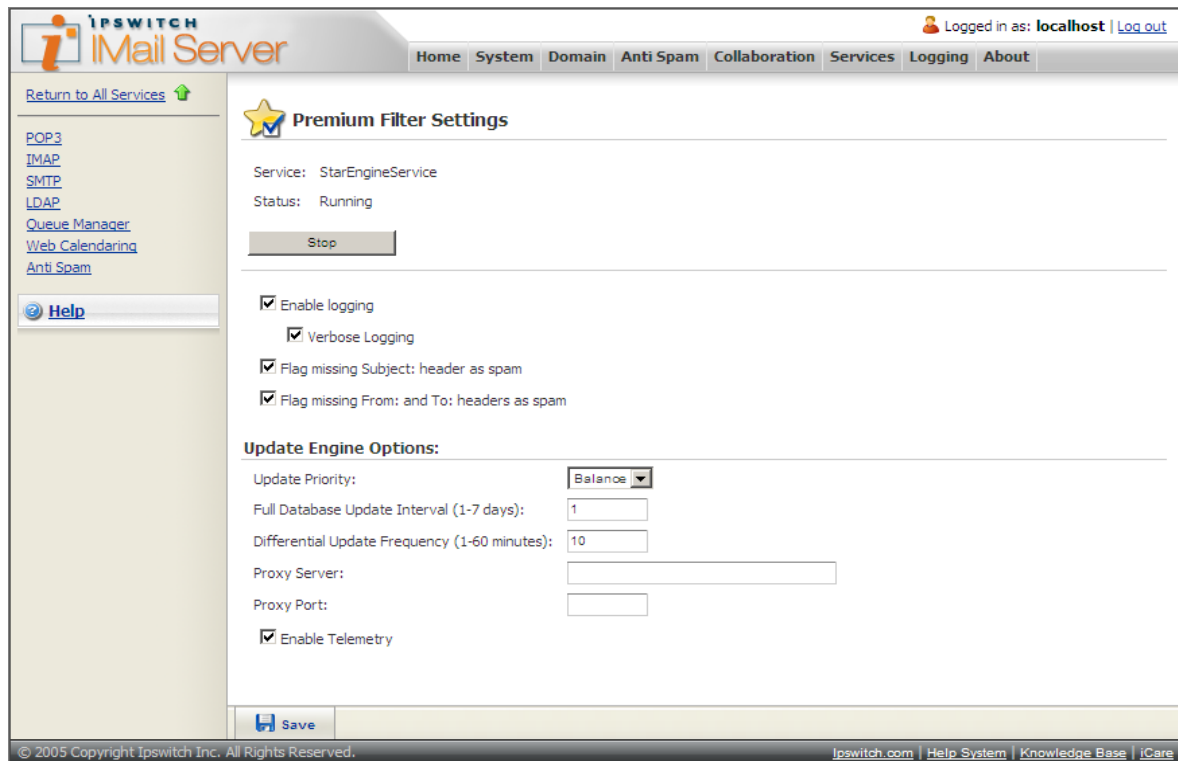
既存のウィルスの一般的な特性を検索することで新規のウィルスを検出するヒューリスティック技術も使用されています。 If it detects a virus, IMail Antivirus can attempt to repair the infected file, delete the message, or send a bounce message back to the sender. ログファイル項目が作成され、問題の管理者に注意を喚起する電子メールが送信されます。さらに、システム管理者は、感染した電子メールの送信先の“リダイレクトアドレス”を設定できます。オプションで、対象とする受信者にメッセージを配信できないことを知らせるメッセージを送信できます。

IMail Antivirus Administration

以下から IMail Antivirus の設定を管理できます。

IMail 導入ガイド

- **IMail Administrator** [IMail Administrator] の **[Antivirus]** タブをクリックします。
[Antivirus 設定] ページが開きます。



ウィルススキャンを有効にしたり、感染ファイルに対する処理を設定したり、アンチウィルスサーバーの IP アドレスやポートやリダイレクトアドレスや警告電子メールアドレスを設定するには、このページを使います。詳細については、「**IMail Administrator ヘルプ**」を参照してください。

Symantec Scan Engine Web Administrator

Symantec Antivirus Scan Engine Web Administrator を通じて Symantec の Scan Engine プロトコルと管理設定にアクセスできます。[アンチウィルス設定] ページの :8004 (Scan Engine Web Administrator のデフォルトのポート) があとに続く **[プロキシサーバー IP アドレス]**に入力した IP アドレスで Scan Engine Web Administrator にアクセスできます。

例：

http://123.100.100.80:8004。Scan Engine Web Administrator のデフォルトパスワードは **admin** です。[Symantec Antivirus Scan Engine Administration] ページが表示されます。

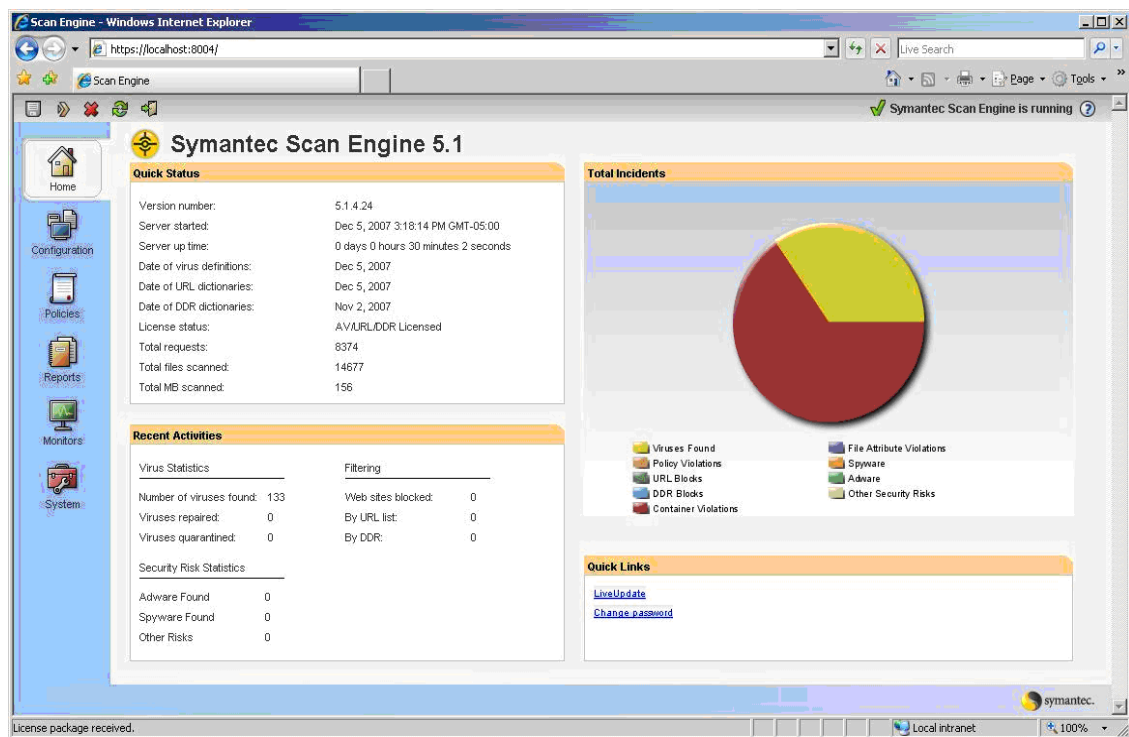
新 ScanEngine 5.1.4

The new Symantec Scan Engine has several added features:

- Spyware scanning
- Adware scanning
- URL Filtering - IMail currently does not support this feature
- Content filtering (Dynamic Document Review) - IMail currently does not support this feature

Scan Engine changes:

- Scanning now uses ICAP mode on port 1344 rather than Native mode on Port 7777.
- Scan Engine admin now requires SSL on port 8004.
- The admin no longer uses a username. Only a password is required. If no password was set during installation then access is not restricted.
- The User Interface has been modified for improved usability.



以下のような多くの Symantec Antivirus Scan Engine Web Administrator のアンチウイルスの設定をカスタマイズできます。

- IMail Antivirus Server への HTTP バインドアドレス
- IMail Antivirus Server を実行する HTTP ポート番号
- Scan Engine Web Administrator パスワード
- ログ情報の種類

IMail 導入ガイド

- 詳細については、[Symantec Antivirus Scan Engine Web Administrator] の **[Help]** をクリックしてください。

IMail Antispam の使用

In This Chapter

IMail Antispam について.....	41
アンチスパム機能を使ってできること	43
アンチスパム機能へのアクセス	43
Ipswitch へのスパムの転送.....	46

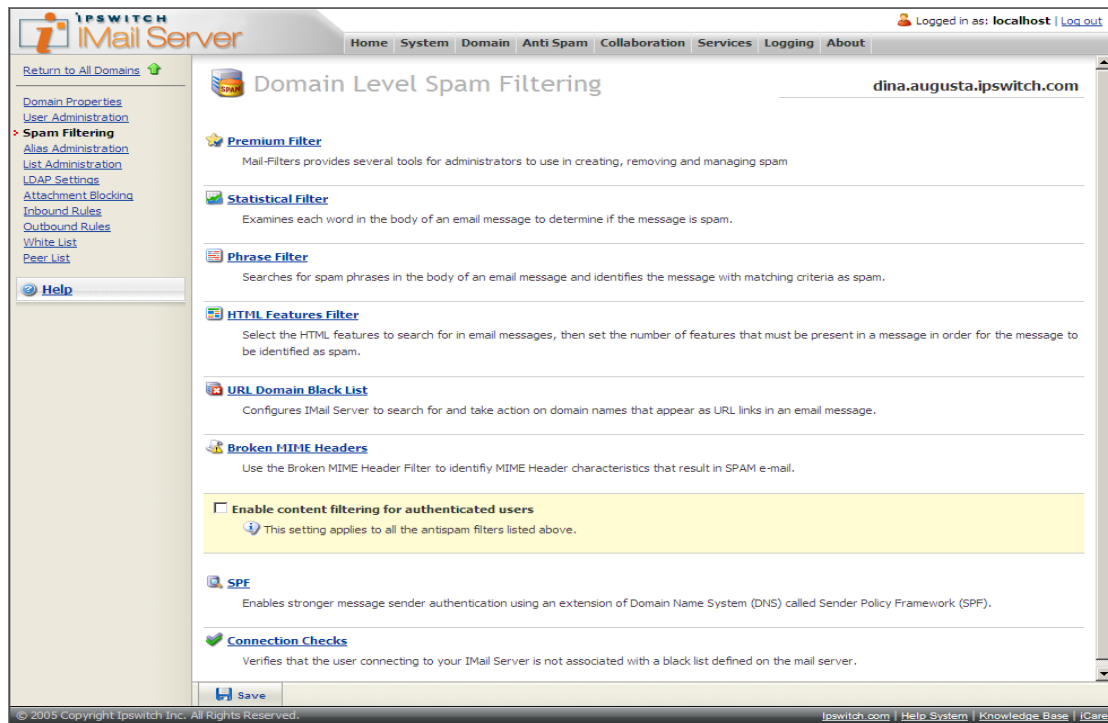
IMail Antispam について

IMail Plus と ICS Premium (2006.2) 版には、Premium Antispam 技術が搭載されています。Premium Antispam は、Mail-Filters™ の言語認識、手動調整、常時アップデート、アンチスパム技術を特色としています。IMail Server では、オフサイトの識別とスパム処理を組み合わせています。IMail Server に対して頻繁なアップデートを送信することにより、Mail-Filters は最大のスパム捕捉率と低い false-positives (誤検知) を確保できます。

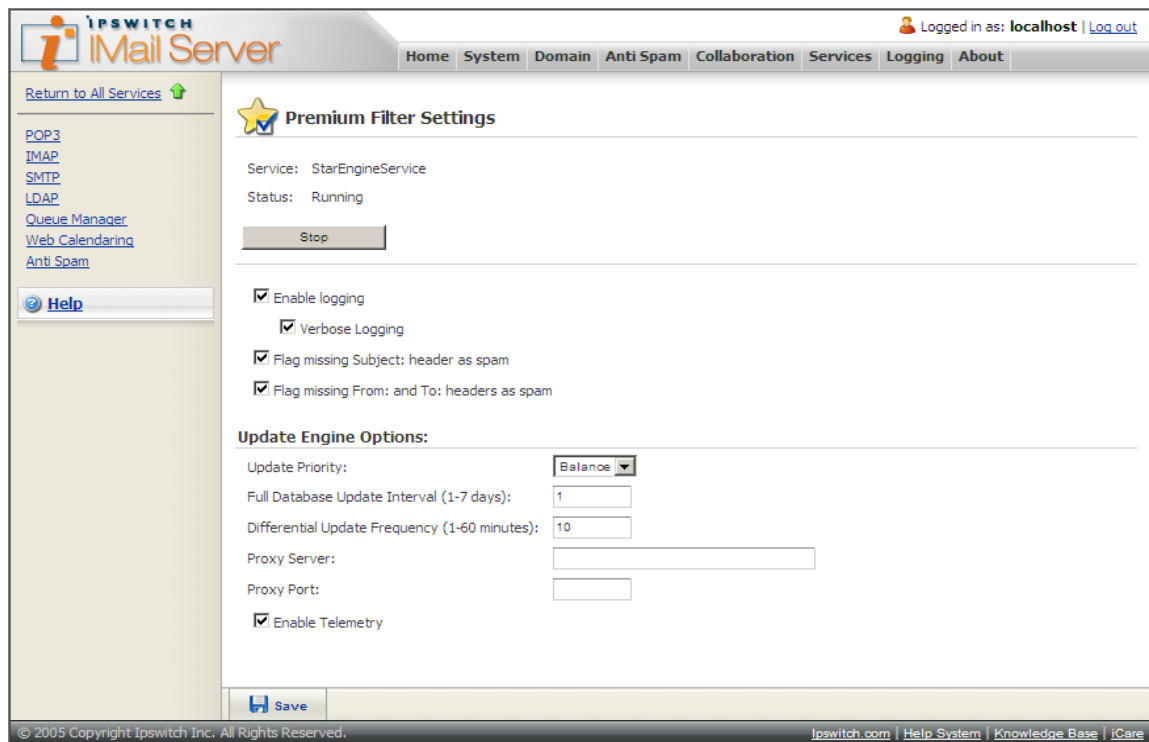
IMail 製品ファミリーの製品にはすべて、標準アンチスパム機能が搭載されています。アンチスパム機能は、スパムを識別し、スパムがお客様の **inbox** の動きを妨げないように防ぐために管理者がカスタム設定します。メールメッセージは、必ずスパムが最大限に検知されるようにフィルタとテストの階層をいくつか通過します。

IMail 導入ガイド

個別にインストールした後、[IMail Administrator] の [アンチスパム] タブをクリックして [Premium Antispam 設定] にアクセスできます。 [ドメインレベルスパムフィルタ] ページが表示されます。



[プレミアム設定] にアクセスするには、[プレミアムフィルタ] リンクをクリックします。



アンチスパム機能を使ってできること

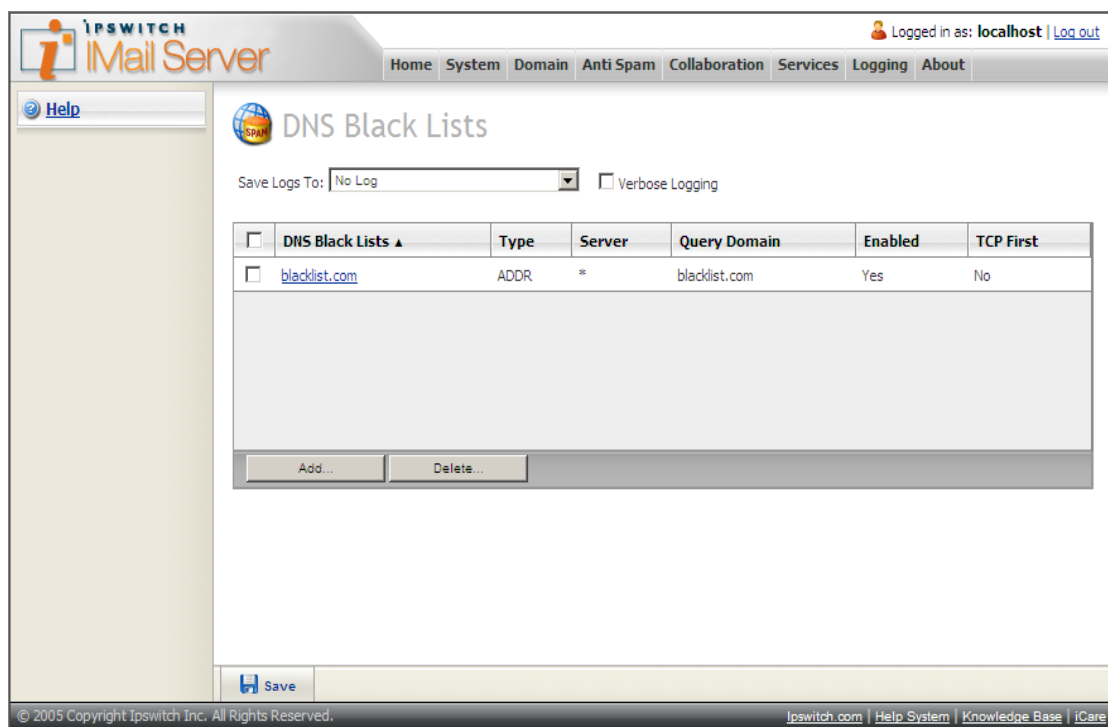
- 電子メールアドレス、ドメイン、コンテンツフィルタリングを迂回するサブネットマスクのホワイトリスト (トラステッドアドレス) を作成します。
- 電子メールメッセージが 既知のスパム送信 IP アドレスからのものかどうかを決めるため、電子メールメッセージを設定可能な DNS ブラックリストと比較するために接続フィルタリングを使います。
- "Mail FROM" アドレスと HELO/EHLO ドメイン情報を検証する検証チェック (接続フィルタリング) を有効にし、着信電子メールメッセージについての逆引き DNS 参照を実行します。
- 偽造電子メールアドレス (スプーフされた電子メール) からの電子メール着信を停止する能力を向上させるために、Sender Policy Framework (SPF) 機能を使用します。
- Mail-Filters アンチスパム技術を使って、スパム防御を自動的に管理するには、Premium Antispam フィルタ (ICS Premium、IMail Plus および IMail Secure Server スイートのみで利用可能) を使用します。Premium Antispam のフィルタ設定は、標準アンチスパムフィルタ設定以前の着信メールに対して適用されます。
- 電子メールメッセージの件名や本文の中で、特定のスパムフレーズを検索するフレーズリストを設定するには、フレーズフィルタリング (内容フィルタリング) を使用します。
- 各メッセージを分析し、それがスパムかどうかを判断するために、統計的フィルタリング (内容フィルタリング) を有効にします。
- 偽装スパムに使用される可能性のある特定の HTML タグについて、メッセージを検索するために HTML 機能フィルタリングを有効にします。
- HREF および IMG SRC HTML タグとプレーンテキストメッセージに含まれるドメイン名 (URL) を検索する URL ドメインブラックリストを作成します。
- MIME ヘッダが壊れた電子メールをスパムとして扱うために、broken MIME header フィルタリングを有効にします。
- メールメッセージがスパムテストに失敗した場合、挿入されているスパムの X- ヘッダに基づいてメッセージをトラップするために、配信ルールを設定します。

アンチスパム機能へのアクセス

アンチスパムオプションはサーバレベルとドメインレベルの 2 つのレベルからアクセスされます。

IMail 導入ガイド

- サーバレベルの設定[IMail Administrator] の **[システム]** タブにマウスを合わせます。次に、**[DNS ブラックリスト]** をクリックします。[DNS ブラックリスト] ページが開きます。

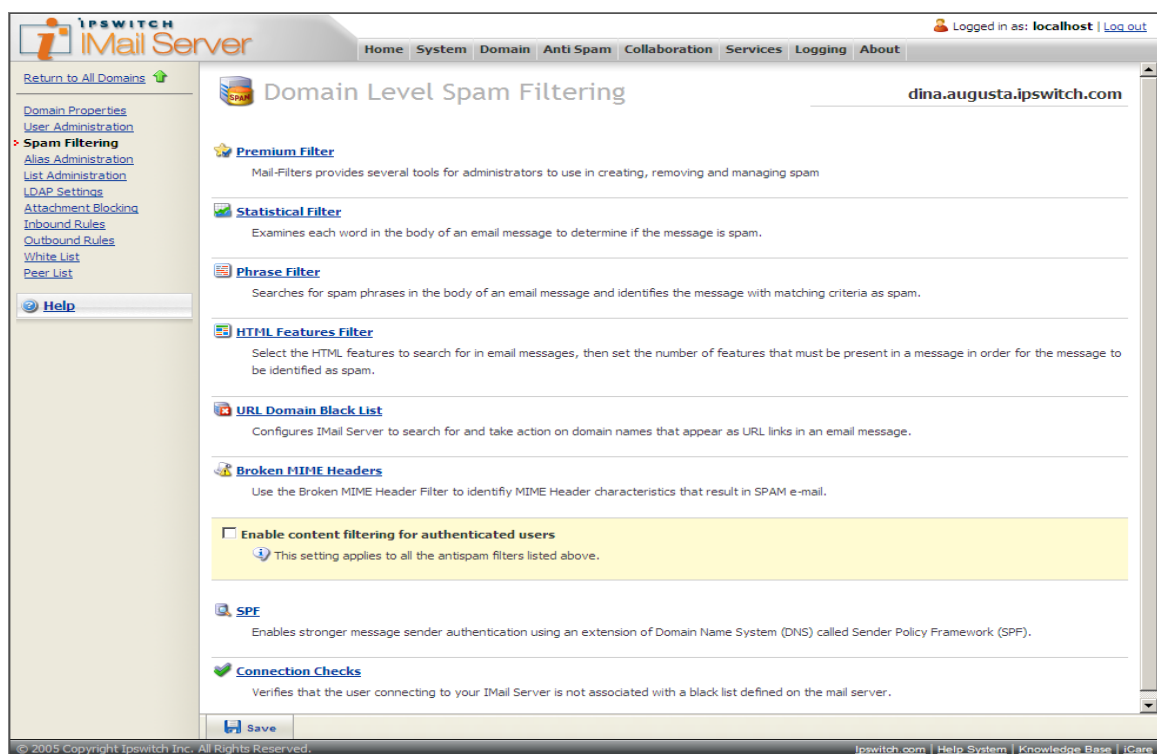


IMail 導入ガイド

サーバレベルで全ブラックリストを設定し、有効にするには、このページを使います。ブラックリストは、IMail 電子メールアドレスで使えるようになる前に、すべて、サーバレベルで設定されて有効化される必要があります。これにより、システム管理者は、どのブラックリストに電子メールアドレスの使用を許可するかを決めます。[DNS ブラックリスト] ページで有効にされたブラックリストのみが、ドメイン (ホスト) レベル設定で使用できます。

サーバブラックリストの追加、編集、削除には、[DNS ブラックリスト] オプションを使用します。現在サーバ用に設定されているブラックリストはすべて、[DNS ブラックリスト] に表示されます。詳細については、「IMail Administrator ヘルプ」をご参照ください。

- **ドメインの設定** Click the IMail Administrator **Antispam** tab. The Antispam Settings page opens.



選択したドメイン用にさまざまなアンチスパムフィルタを有効化、変更、無効化するには、[ドメインレベルアンチスパム] 設定を使用します。

- **[プレミアムフィルタ]** (ICS Premium、IMail Plus および IMail Secure Server スイートのためのオプションです)IMail Server および ICS 標準に搭載されている標準アンチスパムフィルタに加えて、全自動スパム防御が提供されます。詳細については、以下のページの「Ipswitch へのスパムの転送」をご参照ください。
- **統計フィルタ** その電子メールがスパムかどうかを決定するために電子メールメッセージの本文で各ワードを検査します。
- **フレーズフィルタ** 電子メールメッセージの本文内でスパムフレーズを検索し、スパムが入っているメッセージを識別します。

IMail 導入ガイド

- **HTML 機能フィルタ** スパムの対象であるメッセージ内の『 HTML 機能を検索します。メッセージが取り上げるべきスパムおよびスパムアクションとして識別されるには、いくつかの HTML 機能が an .htm ファイルに表示される必要があるのかを設定します。
- **URL ドメインブラックリスト** メッセージ内で URL リンクとして表示されるドメイン名を検索し、そのようなメッセージに対して取られる処置を設定できます。
- **壊れた MIME ヘッダ** 結果的にスパム電子メールとなる MIME Header 特性を識別するには、[壊れた MIME ヘッダ] フィルタを使用します。
- **認証済みユーザについての内容フィルタリングの有効化** 認証済みユーザから受信した全メッセージに対して内容フィルタリングを有効にするにはこのオプションを選択します。

<注記>[認証済みユーザについての内容フィルタリングの有効化] オプションを選択した場合でも、内容フィルタリングはシステムやホスト管理者から受信したメッセージに対しては稼働しません。このことにより、メッセージがスパムとして間違って識別され、次に管理者がそのメールを指定の受信者に転送した場合にメールが 2 度フィルタリングされることを防止します。

- **SPF (Sender Policy Framework)** Sender Policy Framework (DNS システムへの拡張)を使用する電子メール送信者の強化認証を有効にします。偽造された (スプーフされた) 電子メールアドレスからの電子メール着信を停止する管理者の能力が向上します。
- **[接続チェック]** お客様のサーバに接続している者がブラックリストに載っていないことを確認します。

詳細については、「**IMail Administrator ヘルプ**」を参照してください。

Ipswitch へのスパムの転送

ユーザがスパムメールを Ipswitch に転送すると、プレミアムスパムフィルタのパフォーマンスが改善できます。Ipswitch は、そのスパム送信を確認し、スパム署名情報を追加するために、そのスパムメールを Mail-Filters エディタに提出します。そうすれば、他のユーザがスパムを削除する一助となるよう、その署名がグローバルデータベースで公開されます。防御力を最大にするために、このグローバルデータベースは、2〜3 分ごとに IMail Server 上でアップデートされます。

Ipswitch へスパムメールを転送するには：

- If you receive a spam message in your mailbox, forward the email to **reportspam@ipswitch.com** 『mailto:reportspam@ipswitch.com』。

IMail 導入ガイド

プレミアムスパムフィルタでは、誤検知電子メールをなくすことに焦点を置いています。ただし、お客様が誤検知メッセージを受信された場合、将来のスパムをなくす助けとなるようグローバルデータベースに追加できるので、その電子メールをご転送ください。

Ipswitch へ誤検知スパムメールを転送するには：

- お客様のメールボックスで誤検知スパムメッセージを受信された場合は、その電子メールを **falsespam@ipswitch.com** 『mailto:falsespam@ipswitch.com』 までご転送ください。

Mail Servers と DNS

In This Chapter

DNS について.....	49
メールサーバの DNS 使用法.....	50
DNS 内でのメールサーバレコードの設定	51

この付録により、ドメインネームシステム (DNS) 上の背景情報と、メールサービスによる DNS の使い方が分かります。このセクションでは、DNS について簡単にご説明しますが、メールサーバと他のメールサーバを検出するためにメールサーバが使用する DNS レコードに絞ってご説明します。

DNS の操作法に精通されていない場合は、一般的な DNS に関する情報を入手するために、O'Reilly and Associates 出版の『DNS と Bind』という書籍をお勧めいたします。お客様の DNS サーバーでの項目作成の情報についてはお客様の DNS サーバーの資料をご参照ください。

DNS について

DNS (ドメインネームサービス) は、お客様のホストコンピュータを稼働させているプログラムがインターネット上で他のホストのアドレスを見つけることができるメカニズムであり、インターネット上の他のホストがお客様を見つけることができるメカニズムです。DNS は原則的に、インターネット構造のマップを提供しています。

組織は、InterNIC を伴ったドメイン名を登録し、ホストがこの組織のドメインで使用するためのアドレスを入手する必要があります。例えば、**ipswitch.com** は登録されたドメイン名で、**ipswitch.com** に割り当てられたアドレスは **156.21.50.1** から **156.21.50.255** です。ドメイン名の登録についての詳細は、**<http://www.internic.net>** の InterNIC's Web サイトをご参照ください。

インターネット上のすべてのホストは、ホスト名と IP (インターネットプロトコル) アドレスを必ず持っています。ホストには好みのホスト名を付けることができます。ただし、その名前がお客様のドメインの中では他の同じ名前のない固有のものでなければな

りません。例えば、**ipawitch.com** ネットワーク内のホスト名やアドレスの中には以下のようなものがあります。

test1.ipswitch.com 156.21.50.1

test2.ipswitch.com 156.21.50.2

test3.ipswitch.com 156.21.50.3

DNS サーバでは、こういったアドレスに対するホスト名のマッピングが提供されています。**ipswitch.com** の DNS サーバにより、**ipswitch** の各ホストとそれに対応しているアドレスが一覧化されています。このようにして、**ipswitch.com** 以外のどのホストでも、特定のホストのアドレスを検出するために **ipswitch.com** の DNS サーバにクエリーを行えます。一度アドレスを取得すると、そのクエリーを要求しているアプリケーションはそのホストと直接通信できます。DNS サーバにクエリーを行うことは、“DNS 参照”または“参照”とも呼ばれていることにご注意ください。

ipswitch.com 以外のあるホストが、**ipswitch.com** ネットワーク上のあるユーザにメールを送る場合、そのホストは DNS サーバに対し、**ipswitch.com** が **ipswitch.com** のメールユーザを検出するようクエリーを行います。そうすれば、そのホストは、適切なユーザにそのメールを配信するメールサーバにメールを送信できます。

メールサーバの DNS 使用法

他のインターネットホストと通信する SMTP メールサーバはすべて、メールアドレスの参照に DNS サーバを使用しています。メールサーバと DNS サーバの間の基本的な通信は、受信・送信メールについて以下のように実行されています。

受信メール：

DNS サーバがどのようにしてメールアドレス参照に使用されているかをご説明するために、別のインターネットホスト上のユーザがお客様の IMail Server ホストのユーザ (例えば、**fred@domain.com**) にメールを送信したら何が起こるかといった例をお示しします。

- 1 あるユーザがお客様のユーザ、**fred@domain.com** にメールを送信します。
- 2 メール送信サーバは、**domain.com** ネットワーク上の DNS サーバに対し、メールサーバのホスト名を尋ねます。DNS 内の MX (Mail eXchanger) レコードによりメールサーバのホスト名が識別されます。
- 3 **domain.com** の DNS サーバは、そのメールサーバのホスト名である MX レコードの値、この場合、**mail.domain.com** を返信します。
- 4 今度は、メール送信サーバは、**domain.com** ネットワーク上の DNS サーバに対し、そのメールサーバホストのアドレス (**mail.domain.com**) を尋ねてきます。DNS 内の A レコードにより、IP アドレスへのホスト名がマップされます。

- 5 domain.com の DNS サーバは、メールサーバホストに対し、IP アドレス (156.50.1.5) の A レコードの値を返します。
- 6 送信メールサーバは、受信メールサーバの IP アドレスに接続し、メールを送信します。

送信メール：

お客様の IMail Server のユーザのうちの 1 人が、別のインターネットホスト上のあるユーザに (例えば、sam@widgets.com 宛てに) メールを送る場合、widgets.com ネットワークの DNS サーバ上の MX レコードおよび A レコードの参照を行うのがお客様のメールサーバだということを除いて、同じ手順が発生します。

逆引き参照

メールサーバの中には、受信メールについて、そのメールが有効であることを確認するために、アドレス上で“逆引き参照”を実行するものがあります。これには、メールを中継するために不法に他人のメールサーバを使用する可能性がある大量送信者を阻止する意図があります。PTR レコードは、着信メールがメールサーバから発信されたものであり、ワークステーションから発信されたものではないことを確認することを意図しています。逆引き参照を行うために、受信メールサーバは、送信メールサーバのネットワーク上の DNS サーバに対して、送信サーバの IP アドレスが送信サーバのホスト名と一致していることを確認するよう要求します。

逆引き参照は、メールホスト用の PTR レコードを作成することにより DNS 内で有効になります。PTR レコードにより、ホスト名に対する IP アドレスがマップされます。

DNS 内でのメールサーバレコードの設定

DNS 内でお客様のメールサーバを設定するには、他のメールサーバがお客様のメールサーバを検出して接続するために使用するレコードを作成する必要があります。最初に以下を所有するように求める項目の作成

- ローカルネットワークの登録インターネットドメイン名 (例えば、domain.com)。
- ローカルネットワークの DNS サーバ。

ローカルネットワークの DNS サーバの設定

お客様のメールサーバが他のメールホストと通信できるようになる前に、DNS サーバがお客様のメールサーバを認識するように設定する必要があります。DNS が機能するように、正しく設定しなければ、IMail Server は、IMail Server 内にあるドメイン以外には、メールを送信できません。

お客様のネットワーク上の各メールホストのために、お客様の DNS 内に以下の項目を作成する必要があります。

IMail 導入ガイド

- メールドメイン用の **MX** レコード (例、**domain.com**)。MX レコードにより、メールホストのホスト名が識別されます。IP アドレスを持っていないメールホスト (仮想ホスト) のみに **MX** レコードが必要となることにご注意ください。
- メールホストのホスト名用の **A** レコード。A レコードにより、IP アドレスへのホスト名がマップされます。
- メールホストの IP アドレス用の **PTR** レコード。PTR レコードにより、ホスト名に IP アドレスが割り当てられ、逆引き参照用に使用されます。
- **SPF** レコードにより、お客様のメールサーバに関連している可能性がある偽造の (スプーフされた) 電子メールアドレスからの受信メールを防ぐために、他のメールサービスが **SPF** フィルタリング (メールサーバ上でこの機能が利用可能になっている場合) を使用できます。**SPF** レコードはより広範に実行されるので、**SPF** フィルタリングはスプーフされた電子メールアドレスを識別する際により効果的になります。**SPF** レコードについての詳細は、「*IMail Administrator ヘルプ*」をご参照ください。

利用可能な多くのベンダーからの **DNS** サーバがあるので、お客様の特定の **DNS** サーバのレコードの作成方法を説明できません。その代わり、単一のメールホストの基本的な設定を使った例をお示しします。

基本設定の例

この例では、**DNS** サーバにクエリーを行い、応答を表示するために **DNS** 参照を使用しています。**DNS** サーバにクエリーを行うために、**Windows NT** コマンドラインプログラムである、**NSLOOKUP** が使用できます。If you are not familiar with this tool, we suggest the **Ipswitch WS_Ping ProPack** application, available as a demo at http://www.ipswitch.com/_download/main.asp?product=WP-0000 http://www.ipswitch.com/_download/main.asp?product=WP-0000, which provides a graphical interface for querying a DNS server.**WS_Ping ProPack** で参照ツールを使用します。

メールサーバ用の **DNS** 項目を説明するために、典型的な小規模ネットワークからの例を使い、以下の想定で開始します。

- お客様には、ネットワークインターフェイスカード (**NIC**) をインストール済みのコンピュータが **1** 台あります。
- このコンピュータの **IP** アドレスは、お客様のアドレスの範囲内の有効なアドレスに対して設定済みです。例えば、**156.21.50.5** を使用します。
- このコンピュータには、お客様のドメインで有効なホスト名を既に割り当て済みです。この例では、**mail.domain.com** を使用します。
- お客様のメールサーバがダウンした際のバックアップとして稼働するように **SMTP** サーバをもう **1** つ既に割り当て済みです。この例では、**cecil.domain.com** を使用します。

このコンピュータのためには以下のレコードを設定する必要があります。

- **IMail** を稼働しているコンピュータのホスト名 (**mail.domain.com**) を指すドメイン **domain.com** の **MX** レコード。

IMail 導入ガイド

- mail.domain.com 用の A レコード
- mail.domain.com 用の PTR レコード

このメールホスト上のユーザの電子メールは **user@domain.com** 宛となっています。

まず、**domain.com** ネットワーク用のメールホストを検出するために、**MX** 参照を実施します (ちょうど送信メールサーバが実施するように)。これをシミュレートするには、以下を返すクエリタイプとして、**WS_Ping ProPack** の参照ツールで、[名前/アドレス] ボックスと **MX** に **domain.com** と入力します。

domain.com

これは、**mail.domain.com** と **cecil.domain.com** がどちらも **domain.com** ネットワークのメールホストであるということを示しています。**cecil.domain.com** ホストはバックアップメールサーバです。数字は、メールホストの優先順位を示し、送信メールサーバに対し最初に使用するメールホストがどちらになるかを示しています。数字が小さいほうが、優先順位が高くなっています。この例の場合、**mail.domain.com** は他のメールサーバが最初に使用するもので、**cecil.domain.com** は **mail.domain.com** がダウンした場合のみ使用されます。

バックアップのメールサーバの稼働方法についての詳細は、「**IMail Administrator ヘルプ**」の「バックアップメールスプーラとしての **IMail Server** の設定」をご参照ください。

ホスト名のみが、**MX** クエリーへの応答に返されます。メールサーバの送信には、メールホストに接続できるようにこのホスト名の **IP** アドレスが必要です。送信メールサーバは、優先順位第 1 位のメールホストの **IP** アドレス (**A** レコードで定義済み) を取得するために別の **DNS** 参照を実行します。これをシミュレートするには、以下を返すクエリタイプとして、**WS_Ping ProPack** の参照ツールで、[名前/アドレス] ボックスと **A** に **mail.domain.com** と入力します。

mail.domain.com

cecil.domain.com の **A** レコードにクエリーを行えば、以下を取得します。

cecil.domain.com

これで、**mail.domain.com** ホストの **IP** アドレスを使って、送信メールサーバはそのホストに接続し、メールを配信できます。この試行が成功すれば、さらに手順を進める必要はありません。ただし、**mail.domain.com** ホストがダウンした場合、この接続試行は失敗し、送信メールサーバは、優先順位第 2 位の **MX** レコード、この場合 **cecil.domain.com** の試行が必要になります。

DNS レコードサンプル

当社の事例のネットワークについて **DNS** サーバにクエリーを行う **DNS** 参照ツールを使う場合 (全情報については、詳細モードで)、以下のような項目が見られます。

domain.com.IN MX 50 cecil.domain.com.

IMail 導入ガイド

```
IN MX 10 mail.domain.com
```

```
cecil.domain.com.IN A 156.21.50.100
```

```
mail.domain.com.IN A 156.21.50.5
```

```
5.50.21.156.in-addr.arpa., type = PTR
```

```
host = mail.domain.com
```

```
5.100.21.156.in-addr.arpa., type = PTR
```

```
host = cecil.domain.com
```

その他の設定

お客様の IMail Server に複数のメールホストがある場合、各ホストごとに、MX、A および PTR レコードが必要です。 For more information, see "*Setting Up DNS for Multiple Mail Hosts* 『on page 9』".

Index

メールアカウント 30

A

A レコード.....	8, 50
検証	23
Alias.....	25
antispam-table.txt	
アンチウィルス管理	
IMail Administrator	37
Symantec Administrator.....	37
ファイル修正の無視.....	34
現在のファイルの上書き	34
新規ファイルのマージ	34
authentication	
SMTP	13

C

client	
ブラウザアプリケーション	30

D

DNS	
およびメールサーバ.....	49
項目	
A レコード	7
MX レコード	7
PTR レコード	7
S P F レコード.....	7
メールサーバ	6
確認.....	23
背景情報.....	8
参照	49
説明	49
動作方法.....	50
複数ホスト	8
DNS サーバ.....	2
DNS ブラックリスト	44

I

IMail Server	
アンインストール	34
テスト	
DNS 設定	23
サーバ	25
データベース	28

ユーザデータベースの選択	9	IMail Server	32
IMail Server Administrator		アンチスパム機能	34
開始	25	アンインストール	
IMail Web Messaging		IMail Server	34
開始	30	アンチスパム	
IMail クライアント		フィルタリングタイプ	43
コンソールアプリケーション	30	管理	
IP address	6	サーバレベル	44
仮想ホスト用	8	ドメインレベル	44
Ipswitch Web サイト	1		
M			
MX レコード			
検証	23		
定義済み	8		
O			
ODBC database	9		
P			
PTR レコード	8, 50		
検証	23		
R			
release notes	1		
S			
security			
SMTP 認証	13		
SSL キー	18		
メールサーバ	12		
SMTP 認証	13		
SSL キー	18		
U			
user database			
設定の確認	28		
W			
Web Messaging			
開始	30		
Windows NT レジストリ	34		
Windows ユーザデータベース	9		
あ			
アップグレード			

アンチスパム機能		メールシステム	
再インストール	34	コンポーネント	2
インストール	15	メールドメイン	
テスト	23	仮想	8
計画	5	や	
さ		ユーザの追加	30
サービス		ユーザフォーラム	3
選択	19	漢字	
電子メール	11	仮想ホスト	
システム DSN	9	IP アドレスなし	8
スパム		IP アドレス付き	8
Mail-Filters へ転送	44	逆引き参照	8, 50
た		参照	
データソース名。「システム DSN」をご参		クエリー DNS サーバ	49
照ください。	9	参照ツール	
データベース		nslookup	23
IMail	9	WS_Ping ProPack	23
外部	9	中継オプション	12
設定の確認	28	電子メール	
選択	17	サービス	11
データベース、ユーザ	9, 28	電子メールクライアント	
テスト		アプリケーション	2
送・受信メール	30	ブラウザベース	2
ドメイン			
単数または複数	13		
ドメイン名	6		
は			
フォーラム	3		
ヘルプ資料	1		
ホスト			
1 次	6		
仮想	8		
複数	13		
ホストエイリアス	25		
ま			
メールサーバ			
DNS 項目	6		
インストール	15		
サービス	11		
セキュリティ	12		
テスト	23		
選択	17, 19		